

西曆 2021 年度 事業計画

社会福祉法人 千鳥会

目 次

法人本部	4～6
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	6～17
津名デイサービスセンター	17～20
千鳥会居宅介護支援事業	20～21
千鳥会在宅介護支援センター	21～22
家族介護教室・家族介護者交流事業	22
高齢者住宅等安心確保事業	23
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	24～29
ゆうらぎデイサービスセンター	30～31
ゆうらぎ訪問介護ステーション	31～32
養護老人ホーム 北淡荘	32～35
地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ	35～42
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	42～44
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	44～45
ちびっこランド ちどり	46～47
グループホーム しおさい	47～48
しおさいデイサービスセンター	49
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	49～50
佐野デイサービスセンター	50
千鳥会福祉用具貸与事業所	50～52

法人本部 事業計画書

西暦 2021 年度目標

全世界で新型コロナウイルスの感染拡大が続き、いまだ感染症の収束が見通せない状況の中、福祉の現場では感染予防対策を講じながらの事業運営となっています。万一感染症や災害が発生した場合でも、利用者には必要なサービスを安定的・継続的に提供しなければなりません。

国では、社会保障審議会介護給付分科会での審議を踏まえ、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、感染症や災害への対応強化を図るとともに、団塊の世代すべての75歳以上となる2025年に向けて、2040年を見据えながら2021年度介護報酬の改定が実施されます。認知症対応や看取りの推進、リハビリ・口腔・栄養の強化のほか、ITC活用による業務の効率化や負担軽減が盛り込まれている。

新型コロナウイルス感染症が拡大するなか、リモートワークの普及を受け、各種会議・研修等について、感染防止の観点から、テレビ電話の活用や、ICTの活用による他職種の連携、介護領域のデータベースを活かした科学的介護の推進が求められています。

社会福祉法人の地域における公益的な取り組みでは、県の地域サポート施設の認定事業を図るなど、社会福祉法人としての地域貢献を推進していきます。

『西暦 2021 年度法人取組課題』

I 利用者に対する基本姿勢

- ① 人権の尊重
- ② サービスの質の向上
- ③ 地域との関係の継続
- ④ 生活環境・利用者環境の向上

II 社会に対する基本姿勢

- ① 地域における公益的な取り組みの推進
- ② 信頼と協力を得るための情報発信

III 福祉人材に対する取組

- ① トータルな人材マネジメントの推進
- ② 人材確保に向けた取り組みの強化
- ③ 人材定着に向けた取り組みの強化
- ④ 人材育成

IV マネジメントにおける基本姿勢

- ① コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
- ② 組織統治(ガバナンス)の確立
- ③ 健全な財務規律の確立

④ 経営者としての役割

1. 理事会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2021年 6月	理事会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告)
第2回	2021年 6月	理事会 (役員改選)
第3回	2021年 8月	理事会 (経営・運営等の現状報告)
第4回	2021年 12月	理事会 (経営・運営等の現状報告・補正予算)
第5回	2022年 3月	理事会 (新年度事業計画・新年度予算)

※ 臨時理事会を開催する場合があります。

評議員会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2021年 6月	評議員会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告・役員改選)

※ 臨時評議員会を開催する場合があります。

監事による監査等

開催年月	協議内容
2021年 5月	前年度収支決算の監査

決算書類等の備置・閲覧

定時評議員会の2週間前から備置

2 重点項目

※ 理事・監事・評議員役員改選時期

理事・監事 2019.6 ～ 2021.6 任期満了

評議員 2017.6 ～ 2021.6 任期満了

※ 感染症や災害等への対応力の強化

◎感染予防対策

感染症予防対策として、委員会の開催、マニュアルの整備、研修の実施

感染症が発生した場合でも、必要なサービスが断続的に提供できるための業務継続に向けた計画の策定を推進する。

◎災害等

多くの利用者・職員を預かる千鳥会では、地震などの被害を最小限にする「防災」

はもちろん、災害時に事業を維持・早期回復するための「事業継続」を考えた行動が求められています。

そこで、「防災計画」と「事業継続計画（BCP）」を取り組む必要があります。

「防災計画」人命を守る計画で、食料の備蓄・防災訓練の実施・救護の体制の整備・安否確認のための連携

「事業継続計画（BCP）」自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損失を最小限にとどめ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき行動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく必要があります。

※人材確保対策の推進

中学校・高等学校等の学校現場への出前授業や専門学校等への就職出前プレゼンテーションを引き続き実施し、介護の魅力発信に努めていく。

※ICT等の活用

超高齢化社会が到来し、今後ますます介護分野の重要性が高まります。その一方で、少子高齢化社会で人材不足が深刻化しています。労働人口が減っていく中で、増え続ける介護需要に応えるには、介護の現場でICT活用による業務の効率性と質の両立を図る重要性があります。

特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

2020年度 総括

(1) 特養部総括

1-1 予防処置を立案し、アクシデント、インシデントの軽減に繋げる。

→予防処置としてユニット会議や勉強会で危険予測をする事の重要性を職員自身が意識する能力が上り軽減に繋げる事ができた。

1-2 利用者個々のニーズを汲み取り、その思いを全職員で応えていくようにし利用者の生活の質の向上に努める。

→新型コロナウイルスの影響で会議の開催が実施出来ない事が多かったが他職種とも連携を図り少しでも利用者個々のニーズに応えるように努めた。

2-2 利用者の生活が施設やサービスの中で完結することなく、家族や知人・友人・地域住民との関係の継続、促進するよう支援する。

→新型コロナウイルスの影響で思うように関係が築けなかったが出前やおやつを外部にお願いし、関係が少しでも継続できるようにした。

3-1 地域における様々な福祉課題、生活課題に主体的にかかわり、多様な関係機関や個人との連携・協働を図り、既存の制度では対応できない公益的な取り組みを行う。

→新型コロナウイルスの影響で取り組みができなかった。

3-2 社会福祉法人も地域の社会資源の一つであることを自覚し、地域の拠点となる活動を行う。

→新型コロナウイルスの影響でイベントが開催できなかった。

4-1 地域住民の信頼・協力が得られるような様々な情報発信の取り組みを行い人材確保に努める。

→人材確保に繋がらなかった。

5-1・5-2 達成可能な目標をたて、結果を確認することでチームの活性化に繋げ良好な組織作りに努める。

→リーダーが主となり2階の1ユニット化を実施した事により良い方向にむかっている。

6-1 福祉・制度や相談・援助・介護技術等のスキルの向上に加え、組織のルールや職場の人間関係、福祉に携わる者としての倫理観を持った職員の人材育成に努める。

→特に接遇面は接遇委員のメンバーが主となり意識が高まってきた。

7-17-2 職員ひとり一人がコスト意識を持ち、適正な収益を確保し、安定的な財務基盤を確立する。

→リーダーがコスト意識を現場職員に伝えていき、職員のコスト削減意識が少しずつ高まってきた。

(2) 事務部総括

1-2. 5-1. 6-1 施設内の勉強会や外部の研修に参加をし色々な知識を身につけ御利用者・御家族が満足できるサービス向上に努め職員にとっても働きやすい環境づくりに努める。

→新型コロナウイルス蔓延の為外部研修の参加や施設内行事が中止になりサービス向上に繋がらなかったが新しい生活様式を取り入れオンライン面会が出来るようにしサービス向上に努めました。

2-1. 2-2 行政を含む多様な関係機関との連携・協力により地域にどのような支援が求められているかを把握し行政の動き等の情報収集・共有に努め家族や地域住民の生活課題が解決できるよう協力して行う。

→新型コロナウイルス感染症蔓延の為関係機関との連携が取れずインターネット等で情報収集に努めました。

3-1. 利用者・家族・地域住民の交流のサービス提供を他部署と連携し行う。

→新型コロナウイルス感染症が蔓延し夏祭りや寄っていかんか千鳥も中止になりサービスの提供が出来ませんでした。

4-1. 施設の魅力を提供するサービス内容をいち早く情報発信をし千鳥会の良さをアピール出来るよう努める。

→定期的にFacebookに御利用者の様子をあげサービス向上に努めました。

7-1. 7-2. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な予算管理執行を毎月確認し稼働率向上にむけ協力し経営状況と財務状況を正確に把握し財務管理に努める。

→新型コロナウイルス感染症の影響は最小限にとどめられたが入院者が増加し収益が予算達成出来なかったが経費削減に努め少ない職員で人件費を押えた効率的な施設運営が出来ました。

(3) 生活相談員兼介護支援専門員総括

1-1. 予防処置を積極的に立案できるよう、職員に意識付けや帳票の見直し等行っていく。

→予防処置の見直しはできなかったが、ユニット会議などで上げてもらうよう意識付けを実施。

1-2. 利用者の担当職員を中心に多職種と共同で利用者個々のニーズの把握、サービス実現、生活の質の向上に努める。

→ミーティングやケアプランの立案時、カンファレンス等に多職種共同で利用者個々のニーズの把握

握、サービス実現、生活の質の向上に努めた。

2-2. 家族や知人・友人・地域住民との関係の継続、促進できるよう、施設行事の立案、実行していく。

→新型コロナウイルス禍により、施設行事が実施できず、家族や知人・友人・地域住民との関係を構築できなかった。家族との繋がりを保つため、リモート面会を実施。

3-1. 3-2. 多様な関係機関との連携を通じて、地域のニーズを把握し、当事業所でできる取り組みを考え実行していく。

→地域サポート施設として見守りサービス、配食サービス、ふれあいの集いちどり、ケアローソン(介護相談窓口)を実施。

4-1. 特養での取り組みを外部に発信し、ブランド力の向上に努めていく。

→フェイスブックやごーどニュースにて特養での取り組みを発信した。

5-1. 5-2. 業務分担の明確化に努め、目標等の進捗状況の確認組織力の向上に努める。

→業務分担表を作成したが、定着が図れなかった。

6-1. 教育訓練や研修の内容を充実させ、福祉の専門職としての意識、向上を目指し、職員の質向上を図る。

→新型コロナウイルス禍により、集団での教育訓練は実施できなかったが、レポート形式にて教育訓練を実施することで、考える力、調べる力の向上が図れた。

7-1. 7-2 法令順守に則った加算の算定、体制作りを行う。稼働率に関しては長期 97%、短期 100%を目指す。

→入退所の人数や入院の延べ人数が例年に比べ増加していた為、目標の稼働率は達成できず。

(4) 介護職員総括

【2階ユニット】

1-1 ユニット会議などを通じて予防処置などの出来事や施設の設備に関して提案し、予防に繋げると共に情報共有を図りリスクの軽減に努める。

→ユニット会議の次第を利用し、提案内容の欄を作成し、ユニット会議の際に確認や、提案がない場合は職員に確認を実施。感染(コロナ)が流行し始めた事で会議実施が困難となったことで話し合いといった機会が減少となった。職員からリーダーへの提案や確認など口頭であった場合は会議の次第を活用するように伝え、提案欄の活用が少し見られ始めた。ただし、提案する職員に偏りがある。今後、さらなる個々の職員の危険予測への意識の向上が必要である。

1-2 日々のケアを通じて思いの傾聴を行うと共に、視線・行動・言動など得られる情報を分析し、利用者の隠された思いに気付く。また各委員会と連携し個々の目標ケアに繋げる事で、質の向上を目指す。

→日々のケアの中で感じ取られる意見は担当、またはリーダーへ伝達し、今後の課題に対して、リスク・メリット・利用者の思い・ADL・ケアの方針を明確にし、課題の方向性を検討するように実施・指導した。各係に書類の管理の振り分けを実施する事で、決まっている書類等は係をメインとしての活動が実施できた。

2-2 利用者の生活が施設やサービスの中で完結する事ないよう本人・家族より情報を収集し、関係の継続ができるよう行事の計画を実行する。

→感染予防の為、オンライン面会が主となった事で家族様との関わりが減った中で、連絡する際やオ

ンライン時に付き添い本人の様子を伝えるなどし、オンラインでは伝わりにくい日ごろの様子が伝わるように工夫実施。オンラインに来られない家族様へは情報を伝える事が難しく、定期的を送るお便りの活用となる。

3-1・3-2 スタッフ個々がそれぞれの課題に対して主体性を持ち選ばれる施設の基盤作り・個々の能力アップを目指す。

→介護職員・千鳥会ゴールドの職員としてサービスとは？を普段の自分が身近な場面に置き換え、自分の身になりケアに取り組んでもらうよう指導。また場面で能力の向上が必要と判断した場合はリーダーと一緒に考え・どの部分への配慮や考えが必要であったかの見直しを行う事で職員個々の能力の向上へ繋げる。職員により能力の向上にばらつきがあり、今後も教育・指導が必要な職員もいる。

4-1 フェイスブックなど通じて外部に情報発信を行い、千鳥会の取り組み・千鳥会での生活が伝わるように工夫し興味を持って頂く。

→フェイスブックを通じて情報発信。第三者が見てアップ内容から施設のイメージに繋がる事を意識し不快に感じられないよう写真の背景などにも注意し実施。

5-1・5-2 提案・実行・分析・見直し・結果を行い、チームとしての情報共有・団結を図る。

→4月より2階ワンユニット化に向け様々な業務の内容の見直し、個々の職員が混乱しないよう変更内容に対して理由付けや、狙い、実施する事でのメリット・デメリットの内容を文書作成し実施、実施後に内容のフォローアップを都度行い職員の声を聴き必要な部分・改善の必要性などを判断し細かに分析し、その都度上記の内容を作成し職員個々が同じ狙い・目的を持ってチームとして行動できるように実施。職員の意識にもムラがあり、都度個々の職員と話をし同じ目的・ケアが行えるよう日々の職員の行動・言動にも視野を向け指導を実施。まだ改善の必要性や問題点は残っているが、ワンユニットとしてのチーム化は形になってきている。

6-1 客観的に自分を見直しつつ謙虚さを忘れず福祉に携わる者として倫理観を持ちケアに取り組む。

→チームのリーダーとして模範となれるよう日々のケアの中で技術・知識・接遇、自問自答しケアや指導に取り組む。

7-1・7-2 職員一人一人がコスト意識を持ち需要・供給を理解し、業務の効率化・ムダがないか分析し都度見直しを行う。

→業務の効率化（①ケース記録の実施時間の削減。単語登録を個々の利用者のサービス内容と照らし合わせ、都度ケース更新やケアの内容の変更時に更新を実施する事で大きく打ち込みの時間の削減が行え、ケアの対応につなげる。②コロナ化の中で業者の707の行き来を中止した事で混乱にならないように文書作成し個々の職員の動き・他部署との連携の流れを明確に実施し作業効率の安定を図る。③おツ交換の時間を見直し実施。④2階のワンユニット化での職員の個々の動きを明確にし当日出勤者がそれぞれ役割を理解し行動できるようにマニュアル化。⑤感染時色分け指示を実施を提案し実行する事で、感染時の対応時に細かな指示なくマニュアルにのっとなって実施し看護・介護との連携を図り指示を出す時間の最小限化を実施。⑤おツ交換やケアの技術の指導を実施し、効率よく、かつ丁寧を意識し取り組む事で汚染でのケアにかかる時間の削減。）

需要・供給を個々の職員への指導を実施。（①パットの値段を普段から意識できるように金額の高い物から低い順への表を普段から目につく場所に実施。職員もパットのコストに意識を向け時間に応じたパットや普段からムダがないように意識をし、おツ交換では都度状況に応じて適切なパットの見直し表を

作成し、他の職員は表をもとにケアを実施。また感じた事などをリーダーに情報を提示してくれ都度変更・見直しを実施。②夜間だけ紙おむつを使用している方1名に関してお試して布おむつカバーを購入。購入より半年使用可能。1晩1枚64.7円を半年。洗濯などの水道代をも考えると約8千円の削減を実施可能であったが多数の方に実施は厳しく課題はあり。③業務の見直しを実施し1日1人と計算し12日分の職員出勤の削減（時間外やバイト）を実施したが、退職が2名あり配置職員が減少した事で時間外やバイトの出勤数が増えた。時間外の削減にはつながらなかった。）

【3階ユニット】

1-1 利用者が快適に生活を送れるように、また事故の予防につながるように予防処置を提案し、改善に努める。

→予防処置の提案までは行えなかったが、快適な生活を送れるように意見を出している。

1-2 利用者個々のニーズを把握する為、想いを傾聴するだけでなく、表情・行動・家族から情報を聞く等して情報収集し、次第やアセスメントシート等で情報共有する。利用者個人の目標に向けて職員全体で取り組み、日々の生活の質の向上に努める。

→新型コロナウイルスによるコロナ禍で、家族と直接会って情報を得る機会が減っている。利用者のケアプランの目標や注意する点を職員全体で話し合い、生活の質の向上に努めた。

2-2 家族や知人、地域との関わりを継続できるように外出や地域の催しへの参加を計画・実施する。

→新型コロナウイルスによるコロナ禍で、施設行事や外出等のレクリエーションが行えなかった。家族に対してはオンライン面会を実施し、少しでも家族との交流を行っている。

4-1 外部にどう伝えたいかを考えながら取り組んでいるケア等について情報発信を行い、千鳥会をアピールする。

→外部に使用する写真には、個人情報以外にもコロナ禍に合わせた工夫したユニットで取り組んでいる内容をフェイスブックにて情報発信を行っている。

5-1, 5-2 委員会等の各自の役割と目標、行動内容を明確化し、職員全体で協力しながら小さな目標を達成していき、反省と課題を確認していく。

→ユニットでは特に係の役割と目標を設定したが、実際の行動内容を明確化出来ず、目標を持って行動する事が出来なかった。

6-1 福祉制度、相談援助、介護技術等の知識や能力の向上に努め、また福祉に携わる者として自身の考え方・行動を振り返り、判断力と責任感の向上を目指す。

→新型コロナウイルスによるコロナ禍で、集まっての会議や勉強会が行えなかった。レポートで個人学習する機会があり、受け手だけでなく、自ら学ぶ為の情報収集を行えた。

7-1, 7-2 働きやすい職場環境・業務の分担や効率化を行い、また意識をもって経費削減に努める。

→不要物品の処分を実施、また新型コロナウイルスへの感染症対策物品の購入等もあり、整理整頓に努めた。排泄用品の検討・変更を実施、また防水シートを使用しない方のリストアップ等、経費削減に努めた。

（5）看護部総括

1-1 利用者の安心安楽な生活、安全な環境の提供の為に、危険予測に対する意識を持ち予防処置の立案、事故防止に努める。

→予防処置の立案までは出来ていなかったが、危険予測に対する意識付けはできた。

1-2 利用者一人ひとりの精神的・身体的ニーズを受け止め、尊重し、多職種と連携、協働することにより、生活の質の向上に努める。

→コロナ禍の生活において、利用者の精神的・身体的な状況が変化している。他職種との連携・協同により利用者のニーズに向き合い、生活の質の向上に取り組むことができた。

2-2 利用者の生活が、施設の中だけでなく、家族や知人・友人・地域住民との関係が継続できるよう支援する。

→面会制限により、利用者とはうることができない状態であった為、出来るだけ丁寧に、日々の生活や状態について、連絡時に伝えられるよう努力した。

5-1・5-2 情報交換・情報共有に努め、福祉に携わる者としての倫理観を持ち、良好な人間関係の確立を図る。

→他職種間、看護間の情報交換・情報共有を大切に、良好な関係づくりに努めた。

6-1 福祉の専門職としての意識を持ち、的確な判断が出来る力を身に着けるようスキル向上を図る。

→福祉の専門職としてのスキル向上に取り組み、状況に応じた判断力を養えるよう努力した。

7-1. 7-2. 経費削減意識を持つとともに、業務の効率化に取り組む。

→在庫管理を行うことで、必要・不必要を確認出来、発注量を減らすことができた。

また、業務の効率化に取り組み、改善する事が出来たが、今後も検討していきたい。

(6) 管理栄養士総括

1-1. 食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気付き、調理業務（委託会社）支障がでないようにする。

→委託会社とも伝達や連絡を行い、食事提供、業務に支障はなかった。

1-2. 利用者、家族と関わる時に、その人らしい生活を継続する為の情報収集ができるような関係を築き、食事等に反映していく。

→カンファレンスやアンケート等で家族様や利用者に聞き取りを行いました。

3-2. 夏祭りでの模擬店の出し物等を利用者、地域の方に喜ばれる内容にし、千鳥会の取り組みを理解してもらう。

→今年度は新型コロナウイルスがあり、大きな行事を実施することができなかった。

4-1. ユニット等で行う調理レクの時、厨房が関わる場合、スムーズに連携できるよう段取りし、SNSに上げられるよう協力する。

→今年度は新型コロナウイルスのこともあり、クッキングレクが少なかったが、厨房から提供した行事食等を利用者と共に SNS に上げて発信できた。

5-1. 6-1. 職員間の情報交換・共有に努め、福祉制度の知識や栄養等のスキル向上を目指す。

→外部研修リモートになることで、参加しにくかった研修に参加することができた。

7-1. 7-2. 安全な食事提供を維持しつつ、安定した食材管理と無駄を無くし、経費削減に努める。

→利用者が少ない時は、食数を減らすことで無駄に仕入れることなく、物価も維持していたこともあり、安定した管理ができました。

(7) 地域支援事業総括

【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】

できるだけ住み慣れた地域で自分の力で、活動的な生涯を送りたいという願いを現実のものとするために、要介護、要支援状態になる前から、一人ひとりの状態に応じた予防対策を図るとともに、要介護状態になった場合においても、地域で自立した日常生活を送ることを目的として地域支援事業が実施されます。地域支援事業は介護サービスや、介護予防サービスと並び、介護保険制度の3つの柱の一つとして考えています。2020年度は新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防対策を徹底した上での実施となり、新しい生活様式を取り入れた取り組みを行いました。

2014年度から開始したふれあいの集い・ちどりは、利用者が主体となり、プログラムを決め、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。また、介護認定を受けられた場合、速やかに必要な支援へと繋げられるよう取り組みを行いました。

配食サービスでは、お弁当を専任職員が配達するという事で安心感を持って利用頂き、またお弁当を配達するだけではなく安否確認、コミュニケーションを図ることができ、家族との情報共有等も行っています。

2018年2月23日よりローソン東浦浦店内にケアローソンとして介護相談窓口を開設しました。介護支援専門員等の相談員が常駐し、介護相談援助業務を行い、必要時は、行政機関、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、担当介護支援専門員、事業所等に情報伝達、共有を行い、問題解決ができるように支援しました。

今後、社会福祉法人としてどのように地域貢献を行って行くのかが使命であるが、高齢であっても、障害があっても、地域住民として住み慣れた地域でできる限り安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することを支援していきます。また、サロン活動、広報活動等を積極的に行い、地域の方が気軽に集える居場所の1つになれるよう取り組みたいと思います。

2021年度 千鳥会ゴールド 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 地域との関係の継続
3. 地域における公益的な取り組みの推進
4. 人材確保に向けた取り組みの強化
5. 人材定着に向けた取り組みの強化
6. 人材育成
7. 健全な財務規律の確立

1-1. サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために、積極的に予防処置を立案し事故防止に努める。

1-2. 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。

1-3. BCP(事業継続計画)を策定し、大規模災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。

2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得、感染の恐怖に負けることなく、自信と誇りを持ち業務に臨む。

2-2. 新しい生活様式を取入れながらも、視点を変え、新たな気持ちで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。

- 3-1. 施設の魅力・提供するサービス内容・等、積極的な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。
- 4-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 4-2. 明確な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援に努める。
- 5-1. 2021 年度介護報酬改定法令を遵守し加算取得に努めることにより、適正な収入を確保し、健全な運営を行う。
- 6-1. 稼働率向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入確保に努める。
- 6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理の実施に努める。

（１）特養部方針・計画

- 1-1. 利用者個々に起こりうる危険を認識し、原因究明・対策・予防処置を立案し、サービスの安全性・安心感の向上、リスク低減に努めていく。
- 1-2. 他職種間の連携・情報共有の強化、アセスメント力の向上により、利用者個々のニーズを汲み取り、実現に取り組む。
- 2-1. 実務に即した感染防止マニュアルの見直し、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい生活様式に合う新たなサービスの構築を行うことで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。
- 3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信し PR に努める。
- 4-1. 主任・リーダー、サブリーダー等、正規職員、準職員、非正規職員の業務・役割の分担化を明確にしていくことで、人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 4-2. 目標達成・取組に対しての評価・フォローアップをコミュニケーションを交えて行い、必要時は指導を行う。また個々のスキル向上に向けて、個人目標、教育計画等を活用しながら取り組む。
- 5-1. 2021 年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。
- 6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率が意識しやすいよう努めていく。

（２）事務職員方針・計画

- 2-1. 安全・安心な生活環境を整えつつ感染対策をしながら日々の業務に努める。
- 2-2. 新しい生活様式を取り入れながら他部署と連携し環境整備に努める。
- 3-1. 施設の魅力や提供するサービス内容をいち早く発信をし千鳥会の良さをアピールする為様々な SNS を使い情報発信を行うように努める。
- 5-1. 介護報酬改定に伴い加算取得するため情報収集に努め生活相談員と相談しつつ適正な収入の確保に努める。
- 6-1. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な収入の確保に努める。
- 6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し予算執行率を毎月確認し財務管理に努める。

（３）介護支援専門員方針・計画

- 1-1. 4 半期に 1 つ以上予防処置を立案する。また立案した予防処置を定期的に見直し、サービスの質の向上に努める。
- 1-2. 他職種と連携・情報共有し、利用者のサービスの実現・生活の質の向上が図れるケアプランが作

成できるよう努める。

2-1. 感染源を施設に“持ち込まない”を徹底するため、感染対策を常に意識し、体調管理を行う。

2-2. 利用者が日々喜びを感じられる環境提供ができるサービスを立案する。

3-1. フェイスブックやおたよりを活用し、千鳥会の取り組みや魅力を発信する。

4-2. 明確な評価ができる活動計画の設定と、結果や評価を考察して次の目標達成に向け意識の向上を図る。

5-1. 法令遵守に沿った体制づくりと加算取得に努める。

6-1. 収益に対して意識を持ち、安定した稼働率と経費削減に努める。

(4) 介護職員方針・計画

【介護主任】

1-1. 利用者の日常生活に安心感が得られるよう、危険因子を除去するための予防策を講じ、リスク低減に努めることで安全性を確保する。

1-2. 他職種間の連携・情報共有の大切さ・アセスメント力の向上を行うことで利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。

2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルの見直しを都度行い、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。

2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に対応し、利用者にとって温かな日常生活の提供が保持出来るよう努める。

3-1. 千鳥会の取り組みを多様な手段を活用し発信することに努める。

4-1. 各々の役職が責任を自覚して主軸となり、人材育成・組織風土作りに努める。

4-2. 明確な目標をもち、個々のスキル向上を目指し、個人目標、教育計画等を活用しながら、達成に向けた支援に取り組む。

5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率の確保に努める。

【2階ユニット】

1-1. 利用者の生活の安心、安全を追求し、サービスの向上、リスクの低減に努める。

1-2. 1-2. 他職種との連携を意識し、利用者個々の想いを汲み取り、アセスメントの向上、QOLを高める。

2-1. 都度感染対策マニュアルを見直し、情勢等に対応した対策の徹底を図り、安心安全な生活環境を支える。

2-2. 新しい様式を取り入れながら、新しいサービス等に取り組み、利用者の生活の充実を図る。

3-1. 千鳥会の施設での取り組みを外部などに発信し、魅力を伝えるように努める。

4-1. 役職の役割をしっかりと認識し、専門職の視点で指摘、スキルアップし合える組織作りを目指す。

4-2. 個人目標や教育計画を通して各職員が明確なビジョンを持って、スキル向上やフォローアップに努める。

5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

6-1. 職員一人一人が数値化やデータ収集を意識し、稼働率、経費削減に努める。

【3階ユニット】

- 1-1. 利用者が生活で安心して生活できるように危険予測を行い、リスクの低減に努める。
- 1-2. 1-2. 他職種との連携と情報共有を行い、またアセスメント力を向上する事で利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。
- 2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルにて感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2. 新しい生活様式を取り入れたサービス等に取り組み、利用者が穏やかに日々生活できるように努める。
- 3-1. ユニットでの取り組みを外部に発信し、千鳥会の魅力を伝えるように努める。
- 4-1. 役割を認識し、専門的な知識・技術をスキルアップし合える環境作りに努める。
- 4-2. 明確な目標を持ち、また計画的にスキル向上を目指し、個人目標や教育計画等を活用して支援する。
- 5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。
- 6-1. 業務内容の見直し、数値化やデータ収集を意識し、経費削減に努める。

(5) 看護部方針・計画

- 1-1 利用者の安全・安心な生活を守るため、起こりうるリスクを認識し、事故の予防につなげる。
- 1-2 他職種間の連携・情報共有を重視し、利用者一人ひとりのニーズの尊重、生活の質の向上に取り組む。
- 2-1 感染症に対する正しい知識の習得、自身の健康管理、感染防止マニュアルを見直し、感染対策の徹底を図り、利用者の安全・安心な生活環境を支える。
- 2-2 新しい生活様式を取り入れた施設での生活の中に、利用者にとって、喜びや楽しみ、生きがいを感じられる生活環境の提供に努める。
- 4-2 個々のスキル向上に対して明確な目標を設定し、達成に向けて取り組む。
- 5-1 介護保険制度についての理解を深める。
- 6-1 働きやすい環境作り、業務内容の見直しに取り組む。また、適切な在庫管理を行い経費削減を目指す。

(6) 管理栄養士方針・計画

- 1-1. 食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気付き、ご利用者や委託会社の調理業務に支障が発生しないようにする。
- 1-2. 利用者、家族様と関わる際には、その人らしい生活を継続する為の情報を収集できるような関係を築き、食事等に反映していく。
- 1-3. 災害、食中毒が発生しても、加熱調理や水を使わないで提供できる食品を選定、3日間耐えることを想定とした備蓄食品を用意する。
- 2-2. 利用者が好む献立や希望する内容に近づけるような献立作成に努める。
- 3-1. ユニットで行う調理レク時、厨房が関わる際、スムーズに連携できるよう段取りし、SNS等に発信できるよう協力する。
- 4-1. 5-1. 職員間の情報交換・共有に努め、福祉制度の知識や栄養等のスキル向上を目指す。
- 6-1. 安心安全な食事提供を維持しつつ、安定した食材管理と無駄を無くし、経費削減に努める。

(7) 地域支援事業方針・計画

【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】

【地域見守り事業】

地域住民が住み慣れた場所で安心して生活ができるように、特養の機能を活かした拠点づくり、地域支援（地域貢献）事業、地域見守り事業を展開する。

「目標値」 毎月登録者 10 名

【ふれあいの集い】

住み慣れた環境、地域での生活をできるだけ維持していけるように支援していく。また、利用者の心身の状況を把握し、早期発見、相談援助を行い、利用者の自立した生活を送れるように支援をしていく。自宅付近と施設間の送迎を行い、必要時は買い物支援、外出支援を通して楽しみを持っていただき、閉じこもりの予防、馴染みの関係を大切にしながら、生きがいのある人生を送れるようにします。利用者の状態変化、必要に応じて各関係機関と連携しスムーズなサービス提供に繋げて行けるよう支援します。

「目標値」

1 年間の延べ利用者数 120 名

【配食サービス】

利用者が住み慣れた地域での生活が維持できるように支援していく。また、配食サービスを通して、利用者の心身の状況等についても確認し、必要時は関連機関と連携を図り、地域支援サービス、見守りの充実を図る。

「目標値」

1 年間の延べ配食数 3200 食

【介護相談窓口】

『事業目的』

地域の高齢者、又はその家族に対し、様々な相談に応じ、そのニーズに対応した相談援助を行い、必要時には各関係機関との連絡調整を行い問題解決に努めることを目的とします。また、サロン活動等を通して地域の方が気軽に集え、顔なじみの関係性ができ、必要時には相談援助ができる関係作りを目指します。

『運営方針』

- (1) 地域の高齢者、又はその家族に対し、介護に関する相談に応じ、ニーズに対応した支援方法を助言します。
- (2) 相談内容に応じて、各種の保健、医療、福祉サービスが受けられる様、関係機関に連絡調整します。
- (3) 要援護高齢者等の生活機能の低下を予防するという観点から、サロン等を通して介護予防啓発に努めます。

『事業計画』

- (1) 地域住民に的確な助言が行なえ、必要時には各関係機関と連携を取り、問題解決ができるよう責任をもって業務を行います。
- (2) 地域の高齢者に気軽に相談していただけるような雰囲気作り、サロン等の開催を行い、啓発

事業を展開、拡大することでインフォーマルサービスの活性化、地域力アップを目指していきます。

「目標値」

1年間の延べ相談件数 50件

津名デイサービスセンター

(介護保険事業・介護予防日常生活支援総合事業)

2020年度 総括

(1) デイサービス総括

1-1. リスクマネジメントについて勉強会を実施し、事故予防・事故対策について提案、実行する。事故防止、事故予防が効果的に実施できるように、情報共有を強化する。

→リスクマネジメントとして、気づいたことは職員同士で情報共有を行うなど、大きな事故に繋がらないように取り組むことが出来た。車両の車椅子固定についても再度確認、徹底ができ、より安全に利用できている。

1-2. 利用者一人一人のニーズを収集し、デイサービスでの役割作りに繋がられるようにプログラムを立案する。

→ご利用者へのアンケートを実施し、個々のニーズ把握を行った。また、個別の活動を行うことも少しずつできてきているので、来年度は、更に個別活動を進めていきたい。

2-1. 3-1. 3-2 多様な関係機関との連携を重視し、地域ニーズの把握、公益事業の展開など、地域との繋がりを持った事業所となるように展開する。

→新型コロナウイルス流行に伴い、地域との交流を行う機会が減少してしましたが、DVDを活用し、小学校の生徒と交流を図り新たな取り組みを行うことができた。

4-1. デイサービスの取り組みについて外部に発信できる機会を設け、サービスの質の向上に繋がると共に、ブランド力向上に努める。

→定期的に活動をFBにUPすることで、稼働率向上に繋がった。

5-1. 職員同士が気づいたことが気兼ねなく言え、働きやすい職場環境となるようにする。

→職場の雰囲気作りに、職員一人一人が意識をして取り組むことができた。

5-2. 6-1. 選んでもらえるデイサービスとなるように、1年を通して計画的に、目標を持って行動ができるようなチーム作りを行い、職員1人1人が目標に向かって取り組みができるようにする。

→新型コロナウイルス流行に伴い、新しい生活様式を取り入れた活動を行うことができた。

7-1. 7-2. サービスの充実、顧客満足向上、外部への発信を継続的に実施し、稼働率向上(収益向上)を目指す。制度に基づいた適切な運営を行い、必要時は改善を行う。

→継続的に外部への情報発信を行うことで、新規利用者を毎月獲得し、稼働率を向上することができた。

(2) 生活相談員総括

1-1 アクシデント・インシデントの対策が、職員間で共有できるように、デイ会議やケース会議に取り入れる。

→デイ会議での共有はコロナウイルス感染予防の為に次第での開催になり、有効に活用することが出来なかったが、連絡ノートや朝礼で共有した。

1-2 利用者が主体となり、ご利用者自身がしたいことを選択できるデイづくりを行う。

→ご利用者の趣味などをアンケートで聞き取りを行った。また、3密をさせるため集団レクを中断し、小集団レクやリハレクなどを取り入れ実施することで喜んで頂けた。

2-1. 3-1. 3-2 通所連絡会に参加し、デイサービスに求められることを把握しながら他事業所との繋がりを持つ。

→通所連絡会へ数回参加でき、他事業所と共に地域のイベントへコロコロアートを通じて参加することができた。

4-1 デイの取り組みを発表することにより、津名デイの良さを外部に知ってもらう。

→コロナの影響で発表は実施されず。

5-1 コーチングの知識を深め、職員同士の信頼関係を築き、明るい職場づくりを行う。

→コーチングについて勉強することが出来なかったのので来年度の課題にしたい。職員とのコミュニケーションを積極的に図ることができた。

5-2. 6-1 年間のイベント行事や、デイマルシェ、季節の行事等、利用者の楽しみになるような計画を行う。

→コロナの影響でイベントを行うことはできなかったが、新たな取り組みを考える良い機会となった。特に季節を感じてもらえるようなリモートなど好評だった。

7-1. 7-2 利用者の声を聴き、年間稼働率 73%以上を目標とし取り組む。ご利用者の情報を多職種と共有、計画等を見直し適切に運営する。

→多職種と情報を共有し、利用者や家族の意向に出来るかぎり寄り添い支援することで毎月新規ご利用者を獲得することが出来、稼働率向上につながった。

(3) 看護総括

1-1. リスクについて職員が今まで以上に敏感になるよう、記入用紙を他職種と相談しながら見直し、デイ独自の用紙を作成する。又、アクシデント・インシデントが挙げられた時点で、情報をいち早く共有できるように他職種と検討し、実施する。

→コロナの影響や職員不足もあり、会議や集まって話をする時間が取れず、記入用紙の検討など出来ずであったが、連絡ノート等を活用した。

1-2. 他職種と連携し、利用者のニーズを収集すると共に、疾患を考慮しながら1日の過ごし方をプログラムする。

→コロナ感染予防対策の一つでもあるが、相談し集団レクから個別レクへ変更。又体調等も考慮して、1日のプログラムを個別で考えていくようにした。

4-1. デイの取り組みについて、法人発表出来るように、相談員と協力しながら準備を進める。

→コロナの影響で発表は実施されず。

5-1. デイ会議を活用し、意見交換が出来るよう、デイ会議の次第を充実させる。

→コロナの影響や職員不足もあり、会議や集まって話をする時間が取れず、記入用紙の検討など出来ず

であったが、連絡ノート等を活用した。

5-2・6-1. 職員に感染やその対策、疾患などについての知識を深めてもらえるよう勉強会を実施し、適切な感染対策の実施及び 利用者にあった援助を行っていけるように取り組み、稼働率アップ（選んでもらえるデイサービス）を目指す。

→密になる部分の対策を他職種と実施した。又ご利用者の状態に合わせた援助を提案でき、稼働率上昇した。

2021 年度 事業計画

(1) デイサービス方針・計画

1-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行い、安全に、安心してデイサービスを利用できるようにする。

1-2. 個々のニーズを把握し、利用者が主体的な活動、社会参加、生活の質の向上等が行えるサービス、プログラムを提供する。

1-3. 2-1. 感染対策マニュアル、災害時マニュアルの改訂、訓練等を通じて災害時にも対応できる体制づくりを行う。

2-2. 新しい生活様式を取り入れた（三密の回避）サービス、活動の提供を行い、利用者満足度を高める。

3-1. SNS を活用し、積極的な情報発信を行うことで、法人、津名デイ、千鳥会ゴールド、千鳥会在介のブランド力向上に繋げる。

4-1 専門職、役職者の各々の役割、業務を明確にし、チームケアの中で、組織力向上と、良好な人間関係構築に努める。

4-2. コミュニケーションを重視し、個々の想い、活動、目標が、部署内で共有でき、利用者・職員満足向上に繋がるよう支援する。

5-1. 介護報酬改定の情報を収集し、適切な運営ができるように努める。

6-1. 選ばれる事業所作りを引き続き行い、サービスの向上、稼働率の向上を目標に取り組む。

(2) 生活相談員方針・計画

1-1. 気づきを予防処置として取り上げ、情報共有することでリスク回避を図り、アクシデントを予防していく。

1-2. アセスメント力のスキルアップを目指し、個々のニーズを汲み取り、利用者が生き生きと活動できるサービスを考え提供する。

2-2. 引き続き感染対策を行いながらも、利用者の声を聴き、新たな取り組みにも挑戦する。

3-1. 6-1 日々の取り組みをデイ便りや SNS で発信できるように現場と協力する。また津名デイの強みや魅力を積極的にアピールすることで稼働率向上に繋げる。

4-1. 4-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深める事で、他の職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるように努め、ご利用者の満足向上に繋げる。

5-1. 介護報酬改定内容を正しく理解し、利用者家族へ説明、同意を適切に行う。

(3) 看護師方針・計画

1-2・1-2. 他職種と相談し、インシデント・アクシデント・その他共有しなければいけない情報・個々が得た利用者のニーズや気持ちの共有方法を考え、対策や援助を実行することで、利用者にあったサービスやプログラムを提供する事

- 1-3・2-1. 感染対策マニュアルを基にした勉強会を実施し、災害訓練などに参加することで、実際のイメージ作りを行い、他職種と連携した行動がとれるように話し合う。
- 2-2.・6-1. レクリエーション委員会を行い、3密回避が出来ているかを確認しながら、イベントを実施できるように他職種と連携し、計画立案・実施することで稼働率アップへとつなげる。
- (4) 介護職員方針・計画
- 1-1. 利用者の情報やリスクを、職員、他職種と共有を図り、さらに安心して過ごせるよう、ルール開発に取り組む。また、インシデント・アクシデントの職員と共有し事故防止に努める。
- 1-2. 4-2 利用者個々の情報や、普段のコミュニケーションから個々のニーズを把握して、津名デイサービスで生きがいや喜びを感じれるよう個々にあったサービスを提供する。
- 2-2. 季節に合った行事や、普段のレクリエーションを新しい様式を取り入れた内容で行えるよう職員間で意識したサービスを提供し、利用者の満足度を高める。
- 3-1. デイでの普段の様子や、イベントまた津名デイ独自の活動など SNS を活用し情報を発信してブランド力向上を図る。
- 4-1. 多職種や各職員の役割分担を明確にし効率よく業務を図ることで、活動しやすい職場づくりに努める。
- 6-1. 利用者が満足し、津名デイを選んでいただける雰囲気作りに努める。

千鳥会在宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

2020 年度 総括

- 1-1. 各担当ケースが問題なく実施されているか職員間で連携を行い必要時には助言、指導しリスク回避を行う。また、予防処置を提案しアクシデント・インシデント・クレームを防ぐ。
→週1回ケース検討会議を行い各担当ケースの情報共有を行いリスク回避を行った。
- 1-2. ご利用者・ご家族のニーズを的確に把握し、介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しその人らしい生活が実現するよう支援する。
→利用者、家族のニーズ・各地区の性質を詳細に把握し、介護保険制度及び行政・地域資源・サービスを適切に提供し支援を行った。
- 2-1. 3-1. 地域・行政・多職種との連携を深め、地域課題、資源開発を行い地域づくりを行う。
→全地区のケア会議には参加できなかったが岩屋地区以外は毎回参加し多職種との連携を行い地域課題、資源開発等を行い地域づくりに協働した。
- 4-1. 千鳥会の取り組み等を積極的に外部に情報発信しPRに努める。また各会等で積極的に参画していく。
→コロナウイルス感染症のため積極的なPRはできなかったが各会議等では積極的に参画した。
- 5-1. 6-1 職員間の情報共有、連携を密にし、互いに切磋琢磨しチームの資質向上、人材育成を行う。
→職員間の情報共有、連携を密にし部署内のスキルUPを行うことができた。

2021 年度 事業計画

- 1-1. サービスの「質」と「信頼性」を高めるために、予防処置を立案し、更なる改善に努める。

- 1-2. 利用者のニーズと意思を尊重し、利用者の生活の質の向上に努め、自立心も高める。
- 1-3. 利用者の災害リスクを把握し、災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。
- 2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得つつ、気を緩めずにコロナウイルスへの感染対策を徹底し、業務に臨む。
- 2-2. 「新しい生活様式」を取入れながらも、視点を変え、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。
- 3-1. 各会議等で各事業所・提供するサービス内容等、積極的な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。
- 4-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 4-2. 実現可能な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援に努め、実績に繋げる。
- 5-1. 2021 年度介護報酬改定法令を遵守し加算取得に努めることにより、適正な収入を確保し、健全な運営を行う。
- 6-1. 経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入確保に努める。各事業所、サービスの稼働率についても把握する。

千鳥会在宅介護支援センター（淡路市委託事業）

2020 年度 総括

- 1-2. 本人、家族のニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に情報提供、支援への繋ぎを行い、本人が住み慣れた地域で在宅生活が継続できるように支援していく。
→介護保険外のインフォーマルサービス把握に努め、必要時にはインフォーマルな支援に繋がれた。
- 2-1. 3-1. 介護保険制度だけにとらわれず広い視野でその方の取り巻く環境を評価し関係が途切れないように地域支援を行い、また制度で補えない課題等も地域と協働し地域づくりを行う。
→地域との関係が途切れないよう地域へのフォローも行った。また、地域のいきいき 100 歳体操へも参加した。
- 4-1. 千鳥会の取り組み等を外部に積極的に情報発信し PR に努める。
→コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等で積極的に外部に PR する機会は減ったが、認知症サポーター養成講座を行い、法人の PR を行うことができた。
- 5-1. 6-1 職員間の連携、情報共有を密に行い部署内で協力し効率よく業務を行い部署内のスキルアップに努める。
→部署内で行政・地域の情報共有を行い、また連携し業務を行った。
- 7-1. 7-2. 経費削減を意識し、適切な業務遂行を行い適正な収益を確保する。
→常に経費削減に努め、委託業務を遂行。目標の訪問件数などの達成が行え、安定した運営を行うことができた。また必要時には居宅、介護サービスに繋ぐことができた。

2021 年度 事業計画

- 1-2. 利用者のニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ信頼関係を構

築し住みなれた地域で在宅生活が継続できるよう支援していく。

1-3. 2-1 防災や感染症について正しい知識を学びつつ情報収集を行い、行政や地域と協働し BCP 策定に参画する

2-2. 新しい生活様式に合う新たなインフォーマルサービスの構築などを行い地域づくりを行う。

3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信し PR に努める。

6-1. 6-2. 経費削減を意識し適切な業務遂行を行い、適正な収益を確保する。

*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

家族介護教室・家族介護交流事業

2020 年度 総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味のある方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに役立てていただけるよう配慮し、計画していましたが、緊急事態宣言、コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止せざるを得ない状況でした。

その中でも感染予防に留意しながら年間 8 回開催しました。

参加する事で今までの悩みの解決方法を見つけることができ、視野が広がったとの意見も聞かれ、意義ある家族介護教室を開催することができました。

今後も感染状況を見ながら開催し、在宅介護における不安や悩みが少しでも軽減できるよう、今後も様々な角度からの内容を提供していきたい。

2021 年度 事業計画

2021 年度、家族介護教室及び家族交流事業においては以下の通りの内容を実施する。

感染症の状況により中止、回数減となる場合あり。

- (1) 座談会
- (2) 医療・健康
- (3) 作業療法、もの作り
- (4) 福祉用具
- (5) 施設見学
- (6) 実技
- (7) 終活、成年後見
- (8) 様々な介護保険サービスについての説明
- (9) その他

*現在介護されている方だけでなく、一般に介護に興味のある方など、一緒になって勉強したり、情報交換を行い、高齢者介護についての話し合いが行えるような雰囲気作りを心がけ、多くの方が参加できるように努めます。

*家族介護者交流事業は、介護者同士が交流を深めるとともに、心身ともにリフレッシュ出来る企画、計画をします。

高齢者住宅等安心確保事業（淡路市委託事業）

2020 年度 総括

全世帯に週に1回定期的な訪問を行った。独居者で体調不良等の訴えの方には、湿布を貼ることで不安を取り除いた対応を行うなど、臨機応変に対応できました。全体的に単身者が多く、その中で認知症の出現により、介護認定が必要な方には、家族と連携し申請手続きを行い、小規模多機能のサービスに繋ぐなど、他機関とも情報共有、連携を行っています。また、高齢者夫婦世帯で、転倒を繰り返している方にも介護保険認定の申請手続きを行い、他職種連携のもと住み慣れた自宅での生活が続けられるように支援しています。

住宅機器の不備に関しては直ちに県や市に連絡し、対応を行いました。

新型コロナウイルスの流行に伴い自粛生活が続ぎ、いきいき100歳体操が中断され再開できずに過ごされる様子も伺えます。

担当高齢者住宅では、長期入院、死去、施設入所、家族との同居による退去が多い反面、新規入居者は遅滞気味で空室の多い住宅もあります。住人の中にはこのことに不安や寂しさを感じられている方もおり、この一面からみえる「今までに無かった入居者の空き問題」についても働きかける必要性が高まっている。

訪問、電話等での情報収集、状況把握、問題への気づき、改善が今まで以上に求められてきている。今後も入居者への定期的な安否確認を行い、課題については関係機関と連携し、日々の生活に不安が強い方には、在介、地域包括支援センター、社協、居宅介護支援事業所等と情報共有、連携を行い、自立した日常生活を送れるように努めたい。

2021 度 事業計画

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者のQOLの維持、向上。

1. 高齢者住宅入居者緊急時への24時間、365日対応。
 2. 行政、社協、介護支援専門員、地域住民等との情報交換による連携。
 3. 生活援助員としての基本サービス、力量の向上。
 - ・週1回以上の訪問もしくは電話での安否確認、相談、緊急時の対応の継続。
 - ・入居者の介護、医療等に関する生活相談、情報提供を行う。
 - ・入居者の生活上の問題点について行政、介護サービス事業所等の関係機関へ連絡し、適切な社会資源の利用や自立支援を促す。
 - ・教育訓練・研修による生活援助員の力量の向上を図る。不足している資質を把握し、向上できるようにする。
 - 「気付き」を築く感性の強化の為の教育訓練・研修への参加。
 - 組織内の連携向上による、事業活動の円滑化に努める。
 - コミュニケーションによる入居者との信頼関係の向上と、生活上の安心の確保に努める。
- *淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

特別養護老人ホーム ゆうらぎ

2020年度 総括

ゆうらぎでは、利用者が安全に安心して生活が送られるように毎年事故減少に向けて取り組んでいます。現在では、事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を作成しています。2020年度は利用者の状況も変わり、重大事故が5件発生してしまいましたが、アクシデントの件数は減少しています。今後、原因追及を行い反復的に同じ事故を繰り返さないように、継続的に事故防止に力を入れていきます。

2020年度は年度当初より緊急事態宣言が発令され、新しい生活様式というものができ、これまでの施設運営とは変化を余儀なくされ、その中で、今年度当初に掲げた目標からの方向転換をしなければならなくなり、感染対策の観点から行事も規模の縮小、家族との交流行事も行えない状況となりました。その中でも「施設内行事の充実」「余暇活動の充実」を各フロア目標に掲げ、例年以上の活動実績をあげることが出来ました。また、家族との交流は出来ないかと、ゆうらぎ・北淡荘としてLINEのアカウントを取得し、「オンライン面会」ができる環境を整えさせていただきました。アカウントを取得したことで、毎月配布している生活状況表にQRコードを掲載し登録して頂くところから始めましたが、現在の登録者は12名と伸び悩んでいます。ご家族の方へ周知を図り、オンライン・リモートでの面会の充実を図っていくことが今後の課題です。コロナ禍にありながら感染症の蔓延もなく、昨年度に比べ入院者が大幅に減少に至りました。日々のケアが行き届き、安全に生活できたことの証明ともなりました。入院者が減少したことにより稼働率が安定し、当初の予算通りの収益を確保することができ、施設運営もスムーズに行えたのではないかと思います。加算関係では、8月よりコロナ禍における収益確保としてショートステイ利用者の方に緊急受入加算を算定した事で、収益の安定につながったのではないかと思います。

来年度は介護報酬の改定の年に当たります。加算要件を熟知し、少しでも取得できる加算を増やし、施設運営の安定を図っていきたく思います。

2021年度 ゆうらぎ・北淡荘 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 生活環境・利用者環境の向上
3. 信頼と協力を得るための情報発信
4. トータルな人材マネジメントの推進
5. 人材確保に向けた取組の強化
6. コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
7. 健全な財務規律の確立

下記のテーマを織り込んだ目標を設定する。

- 1-1 利用者満足の向上を目指し、現状のケア、サービスの見直しを行い質の向上を図る。
- 1-2 個別ケアの充実・認知症ケアの実践及び集団感染ゼロを目指す。
- 1-2 予防処置の徹底し前年度より重大アクシデント発生を減らす。また、感染予防を継続し団感染ゼロを目指す。

- 2-1 コロナ禍において外出行事の自粛を行う中で、施設内行事の充実を図り利用者満足度を高める。
- 2-2 事業所が有する人的・物的機能を活用し、事業所自ら又は地域の団体等と連携して、様々な地域貢献活動を積極的に展開していく。
- 2-3 緊急・困難ケースについて可能な限り受け入れるなど、セーフティネット機能を展開する。
- 3-1 SNS の情報等を適宜・的確に更新・修正し、地域や一般市民等に対してリアルタイムに必要な情報を提供する。
- 3-2 小中高等における福祉教育にも積極的に取り組み、福祉の仕事の啓発を行っていく。
- 4-1 役職者としての自覚、責任、行動などの資質を向上させ、主任・リーダー層の育成に取り組む
- 5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上をさせ離職率の軽減を目指す。
- 6-1 職員の資質向上と職業倫理の徹底を図るために、各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。
- 7-1 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。
- 7-2 各事業の稼働率の一層の向上や各種加算の確保に努め、安定的な収入の確保を図る。

2021 年度 事業計画

- (1) 部署別事業計画
 - (イ) 特養事業計画
 - 1-1 「コロナ禍における家族との関わり」についての取り組みを掲げ、一年を通じて行事・交流等にて家族・職員が一体となり、利用者へのケアを展開していく。
 - 1-2 24 時間シートの見直し、個々の生活リズムの再アセスメントを行い、個別ケアの充実を図る。その為に専門知識（認知症ケア）を深めていき、予防処置の意識を高めることで重大アクシデント 0 件を目指す。
 - 1-2 感染症の予防対策を実施し、施設内での感染症蔓延を防止する。また、定期的にマニュアルを見直し、新しい感染症が発生した際にも迅速に統一した対策が講じられるようにしていく。
 - 2-1 施設内で行える新たな取り組みを増やし、コロナ禍においてもストレスを感じる事のない生活環境を整備し、利用者満足度を高めていく。
 - 2-2 地域ケア会議への積極的参加。地域のニーズを把握し、事業所として何が出来るのかを考え、地域貢献に繋げていく。
 - 2-3 ご利用者のニーズをいち早く察知し、事業所の質を高め、緊急・困難事例にも迅速に対応していただけるようにする。
 - 3-1 行事实施後には、すぐに広報媒体等にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。
 - 3-2 将来的な人材確保の観点から、学校教育と連携し福祉分野を学生に聞いていただくことで、地域貢献に繋げていく。トライやるウィーク等の職場体験を通じ福祉に携わる喜びの発信を目指す。
 - 4-1 内部コミュニケーションを充実させ、各自目標をしっかりと見据え、模範となる職員の育成を図る。
 - 5-1 介護システム、オフィス等のアプリケーションを効果的に利用し、組織内情報交換の円滑化を行っていく。
 - 6-1 内部研修の充実を図ると共に、外部研修（オンライン研修）への参加を意欲的に実施し、全職員

のスキルアップを目指す。

7-1 全職員がコストに対する意識を持ちながら、業務に取り組めるよう、コストの「見える化」を行っていく。

7-2 ショートステイの質を向上させ、選ばれる事でショートステイ稼働率 100%以上（空床利用含む）を目指す。

（ロ）事務職員事業計画

3-1. SNS の活用により、ゆうらぎ北淡荘の取り組みや行事等を、適切に情報発信していく。

3-2. 小中高等における福祉教育にも積極的に取り組み、福祉の仕事の啓発を行っていく。

4-1. 役職者としての自覚、責任、行動を改め、周囲に理解してもらう。より質の高い業務をこなしていけるように取り組む。

5-1. 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上をさせる。

6-1. 職員の資質向上と職業倫理の徹底を図るために、内部・外部オンライン研修の活用を行う。

7-1. 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

（ハ）生活相談員事業計画

1-1. コロナ禍においてご利用者と家族の関りを持ってもらうために、LINE登録者の増加を目指す。

1-2. 他職種・他施設連携により、感染予防対策の意識を高め、感染症蔓延0件を目指す。

2-1. 施設内で行える新たな取り組みを模索し、新たな形の利用者本位の行事を増やす。その中で利用者満足度の向上、喜びの声の増加を目指す。

2-3. 日頃よりケアマネージャーとのコミュニケーションを円滑に図り、ご利用者の情報を迅速に察知することで困難事例にも対応していく。

6-1. 内部研修の充実を図ると共に、外部研修（オンライン研修）への参加を意欲的に実施し、全職員のスキルアップを目指す。

7-2. ショートステイの質を向上させ、選ばれる事でショートステイ稼働率 100%以上（空床利用含む）を目指す。

（ニ）介護支援専門員事業計画

1-1. コロナ禍において、家族や他職種が集まったの定期的な会議は難しい状況にありますが、本人、家族、他職種から出たニーズやケア内容を収集、調整しながら「人を大切にしたケアプラン」の立案が適うよう取り組みを行っていく。

1-2. 各フロアから上がった予防処置について、事故の効果が高い報告についてはケアプランにも反映し本人や家族にも予防対策を周知の上、チーム全体で予防の意識を高めることにより重大アクシデント0件を目指す。

5-1. 介護保険改正に伴う、加算習得時のケアプラン反映について柔軟に対応できるようアプリケーションとの連携、調整を実施し、他職種に円滑なケアマネジメントの発信ができるよう取り組みを行っていく。

7-2. ショートステイ利用者への送迎サービスについて、生活相談員と業務を分担することにより、希望日時に送迎サービスが提供できるよう調整を行う。

(ホ) 介護職員事業計画

【介護全体】

- 1-1. 2-1. 実施した行事や日常の様子について、LINE の活用や写真の送付等により、直接の面会が適わない利用者、家族に対し、安心頂けるよう定期的な施設内における情報提供やリモート面会での交流促進について取り組みを行っていく。
- 1-2. 会議等での事故分析を続けると共に、普段からも重大アクシデントに繋がる可能性の高い事故について主任リーダーを中心にディスカッションを行い、「同じ事例による事故を2度と起こさない」対策を講じ、重大アクシデント0件を目指す。
- 1-2. 地域での感染症発生状況を常に確認しながら、状況に応じた感染対策ができるよう取り組みを行っていく。
- 2-3. 緊急、困難事例等によるニーズに対し、速やかに対応ができるよう施設における受け入れ態勢を明確化し、利用者や家族が納得の元、利用できる施設体制を確立する。
- 3-1. 行事等での取り組み内容を定期的に SNS 等にて発信し、ゆうらぎ全体のブランド力が高められるよう PR を行っていく。
- 1-2. 5-1 介護、看護、ケアマネ、それぞれが作成している利用者アセスメントに関する利用者情報シート（サマリー）について1年をかけて検討し、システムを統合することにより、重複する業務の削減や利用者情報について、ズレをなくせるよう体制確立を目指す。
- 6-1. 内部研修の充実と共に、オンライン活用による外部研修も取り入れ、コロナ過においても各職員の学びの場を確立できるよう取り組みを行う。
- 7-1. コストの見える化を促進すると共に、費用対効果も意識し取り組み、削減ばかりでなく、利用者や職員にとって有意義なコスト管理を目指す。

【1階フロアー】

- 1-1. 季節行事で撮った写真を毎月の生活状況表に添付する。日頃のご利用者の様子をご家族にお伝えすることで面会に来られなくても様子を知ることが出来るようにし、ご家族様との信頼関係を維持できるように努める。
- 1-2. 利用者の状況・状態を把握しフロアー会議、ミーティングでケアの変更点や改善点を議題に上げ各自で意見を出し合い、また多職種の意見も取り入れ、ケアの方向性を決定し共有し統一したケアを行い、予防処置の作成も継続し事故防止に対する意識を高め、重大アクシデントの減少に努める。
- 1-2. 職員仕事前の検温・前後の手指消毒を行い、現場に持ち込まないように努める。毎日手すりなどよく触る所は消毒を行い感染予防を行う。ショートステイ送迎時のマスク着用、入居・退居時の検温・手指消毒を行う。マニュアルが更新された際はすぐに職員で共有するように回覧する。
- 3-1. 毎月季節行事を行った後、行事担当者が Facebook にて情報を発信する。
- 7-2. サービス向上のため、余暇時間の有効活用を行い、計画書を基にレクリエーションや体操、個

別にも実施していく。内容については、定期的に見直し、更なる充実を図る。事前の情報とご利用者を見ての情報を把握し安全・安心な生活と事故防止に努める。

また、ご家族の要望や利用者が望むケアを話し合いし、共有し職員一丸となって実施する。荷物間違いについても各職員が意識して取り組み、間違い0件を目指す。

【2階フロアー】

- 1-1. 「コロナ禍における家族との関わり」について介護の現場で実行出来る取組の作成を目指し入居者・家族様の意見を反映した形でのより良い行事・交流の計画実施を行う。
- 1-2. 24時間シートを効果的に活用し各職員が各担当入居者のアセスメントを行い入居者により高い生活の質の向上を目指せるプランの作成に努める、またその情報知識を各職員に伝えフロアー全体でのケアマネジメントの質の向上に努め事故の予防に努める。
- 1-2. 各職員が感染症に対する意識を強くもち入居者職員含め年間でのインフルエンザ・コロナ等の感染者0名を目指し施設マニュアルにそって意識的な行動に努める。
- 2-1. コロナ禍においても入居者の生活の質の向上を目指し生活環境の整備に努め入居者の満足度を高める取組の実施を行う。
- 2-3. 現場での入居者の声を把握し入居者のニーズに沿ったケアの計画提供を行い入居者の満足度を高めるケアの提供を行う。
- 3-1. 行事实施後には、すぐにフェイスブック等広報媒体等にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。
- 4-1. 内部コミュニケーションを充実させ各職員がお互いに成長できる現場の構築に努める、また介護現場発信でのより良い職場環境づくりの提案を行い職員自身での働き方改革の提案を上げていく。
- 6-1. 内部研修・外部研修ともに積極的な参加を目指し各職員の知識の向上に努める。
- 7-1. 全職員がコストに対する意識を持ち介護現場で取り組める案の検討実施を目指す。

【3階フロアー】

- 1-1. コロナ禍における家族との関わりとして、継続して書面でのご利用者の暮らしの様子をお伝えしていく。他にも家族様と意見交換を行い、ケアの向上や信頼関係を築いていく。
- 1-2. フロアー会議・ミーティング内でケア検討を行い、多職種連携し意見交換をしてケアの共有・統一ケアを実施していく。また過去におこったアクシデント・インシデント等内容の振り返り・見直しを行い、同じ事故の件数の減少や予防処置の積極的な作成により重大アクシデントの発生0件を目指す。
- 1-2. 毎日手指消毒と換気の実施の徹底し随時予防策などマニュアルの確認や指導などに努める。また清潔・除菌などの予防策だけでなく体内からも予防できる策も検討・実践し感染症0件を目指す。
- 3-1. 行事实施後は必ず、毎月Facebookの掲載を継続して実施していく。行事だけに限定せずに普段の様子なども掲載し、情報発信していく
- 7-1. 全職員がコストに対する意識を持てるように、見える化を行い、無駄な使用を防止し現状にあ

ったコスト管理を実施していく。

(へ) 看護師事業計画

- 1-1・2-1. 制限下における生活の中で身体的・精神的安定を求めたケアの提供を多職種との連携も深めながら執り行う。
- 1-2. 感染症予防対策の継続。感染症に関する情報収集を行い必要な情報はあらゆる手段を用いて発信・啓発を行う。
- 2-3. 終の棲家として入居者様・ご家族様の意向をくみ取りつつ、入居者様にとっての最期の時が穏やかで豊かな時を過ごせるように日頃からコミュニケーションやカフェインを行い継続的なケアの提供を行う。
- 6-1. 内・外部の研修に積極的に参加し自己啓発に努めるとともに研修内容を現場に還元する。
- 7-2. ショートステイの利用実数増加に伴い業務が煩雑になったり質の低下がみられる場合において指摘・助言ができる体制づくりを行う。

(ト) 管理栄養士事業計画

- 1-1. 食事形態(刻み食、ミキサー食、ソフト食)の見直しを行う。
ミキサー食は昨年度から試作を重ねて、夕食のみ導入しており(昼食にも導入していく)、見た目食欲が沸くようにする。献立、調理の工夫により、食事摂取量が良好に保たれ、咀嚼・嚥下困難者が低栄養にならないように努める。
- 7-1. 残食の多い献立を把握し、無駄のない食材管理を目指す。価格交渉や調理の工夫で、給食費内で質の高い食事提供に努める。
残食の多い献立を見直し、取引業者間での価格交渉もすることで、無駄のない食材管理を行う。
- 7-2. 栄養ケア・マネジメント強化加算を取得するために積極的にカンファレンスに参加し、多職種協同で低栄養リスク者減を目指す。
多職種で連携し、利用者の情報を共有することで、低栄養リスク者減に努める。

(チ) 調理員事業計画

- 1-1. 食事形態(刻み食、ミキサー食、ソフト食)の見直しを行う。
ミキサー食は昨年度から試作を重ねて、夕食のみ導入しており(昼食にも導入していく)、見た目食欲が沸くようにする。献立、調理の工夫により、食事摂取量が良好に保たれ、咀嚼・嚥下困難者が低栄養にならないように努める。
- 5-1. 新人教育に努め、良好な対人関係を築き、働きやすい職場環境作りを目指す。
職員の高齢化を補うためにも、人材育成に努め、安定した食事提供が出来るようにする。
- 7-1. 残食の多い献立の把握と、調理の工夫により、無駄のない食材管理を目指す。
献立の提案力を養うことで、問題解決に繋げ、満足度向上に努める。

ゆうらぎ デイサービスセンター

2020年度 総括

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が流行し、国より緊急事態宣言も発令され、予防薬や、治療薬も確立されていないため、社会全体が未知のウイルスの恐怖に翻弄され、デイサービスの運営にも大きく影響を受けた1年でした。当施設周辺でも感染者が発生したため、感染への恐怖から、定期的に利用されている方の中にもデイサービスの利用を控える方が居られ、また、新規に利用を希望される方も減少し、目標とした稼働率を大幅に下回りました。感染防止の観点から、計画していた外出行事を中止したり、施設内行事の規模を縮小したりし、様々な制約が求められる中でも、ご利用者の皆さんに楽しく過ごしていただけるような催しを企画し取り組み、多くの喜びの声もいただきました。

改めて今年1年を振り返ると、新型コロナウイルスが昨年2月頃から流行し、年間を通してマスクの着用や、手指消毒等の感染対策を徹底する事で、ご利用者の方にも、ご不便、ご迷惑をお掛けしましたが、一人の感染症の発症者を出す事もなく、また、大きな事故の発生もなく、安心、安全な環境を整える事が出来たと思います。

2021年度は、新型コロナウイルスを含め、感染症の防止継続と、大幅に低下した稼働率の向上を目指すため、コロナ禍で楽しんでいただける行事を企画し、SNS等を通して地域へ発信する事で、選ばれる施設となるように取り組んでいきます。そして、ご利用者と職員が協力してこのコロナ時代を乗り越えて行きたいと思います。

2021年度 事業計画

(1) 通所介護事業計画

1. 感染症予防と、事故防止に取り組み、ご利用者が安全、安心に利用できる環境を作る。
2. ご利用者が楽しめる行事を企画し、SNSで情報を発信する事で、選ばれる施設となる。
3. 職場内でのコミュニケーションを充実させ、コロナ禍でのストレス解消を図り、職員間の結束力を高める。
4. オンラインでの研修を含め、積極的に研修会に参加し、職員の資質向上を図る。
5. 稼働率の向上と、加算の取得により、収益の向上を図る。

(ハ) 生活相談員事業計画

1. 地域のケアマネージャーへ新規利用案内を行い、施設外からの利用者の数を増やしていきます。
2. 職員間のコミュニケーション力を向上させ、互いの持つ知識・能力を共有する事で、技術の向上・働きやすい職場環境の確保に努めていきます。
3. 新たな施策を模索する事により、一層の顧客満足度向上を実現させます。
4. 新たな加算取得に向けての情報収集を行い、取得できるものはしていきます。
5. 各種研修に参加して、相談員としての能力の向上を図ります。
6. 感染症マニュアルに沿って、感染症の予防に努めていきます。
7. 地域の福祉ニーズを把握し、現状の生活の中での問題点を探り在宅サービスの可能性を広げていきます。

(ニ) 看護師事業計画

1. 利用者の身体状況を把握し、日常における健康管理の維持、援助に努める。
2. 利用者の情報を他職種と共有し、感染症防止、事故防止に繋げるための環境整備に努める。
3. サービスのクオリティ向上を図る為、教育・研修に率先し取り組むと共に、外部研修にも積極的に取り組む。
4. 利用者の増加に伴う情報を収集し、利用者へのサービス向上を図る。
5. 急変時の対応が迅速に行えるよう必要物品の配置、対応方法の教育に努める。
6. 感染症へのご利用者・ご家族の理解を深め、事業所内での蔓延を防ぐ。

(ホ) 介護職員事業計画

1. 利用者の身体状況を把握し、職員間で情報を共有し、事故防止につなげるための技術向上に努める。
2. あらゆる事故を予測し、危険因子となりうるものを取り除き、早期発見により事故を未然に防ぐように努める。
3. 緊急時にいかなる時も対応出来る様、知識・技術の向上を図ります。
4. 質の高いサービスを提供できるよう、利用者の個々のニーズを把握し適切な介護サービスを提供するとともに、職員の介護技術向上、情報共有に努め快適な生活環境を作ります。

ゆうらぎ 訪問介護ステーション

2020 度 総括

訪問介護の現場では、常日頃から感染対策を心がけていますが、今年度は新型コロナウイルスの流行により、これまで以上の危機管理が求められました。「訪問時にウイルスを持ち込まない、受け取らない」をキーワードに対策を行いました。

まず、利用者が、訪問介護員がウイルスを持っている前提で対応する。予防策を徹底する。利用者の状況に合わせて対応していく。何度も何度も研修を重ねてきましたが、訪問介護員の不安は尽きません。そんな時、宝塚市の社会福祉協議会の方々との交流（意見交換及び対策等、オンラインで）する機会があり、お話をしているうちに不安は少しずつ、これでよかった、この方法で続けようと思えるようになりました。気が抜けない感染対策はまだまだ続きます。1ケアごとの手洗い、訪問前後の手指消毒の徹底はもちろん、今、とるべき対策をこれからもその都度見直していこうと思います。また、事業所のパンフレットにもなる「へるぱーだより」を発刊することが出来ませんでした。利用者とのコミュニケーションを取りながら、生活の質（自立した生活・支援方法）の見直しは今年度も継続していきます。日々ヘルパーは利用者向き合う現場では、トラブルが多いです。ヘルパー同士のケアに対する考え方の違いなど、事業所内の軋轢を生みトラブルに発展・離職につながることも多々あり憂慮すべき課題となっています。アンガーマネジメントを学ぶことで怒りをコントロールし現場でのモチベーションをあげていけるよう取り組んでいこうと考えています。

2021 年度 事業計画

- 1-1 利用者満足の上を目指し、現状のケア、サービスの見直しを行い質の向上を図る。
⇒利用者ひとりひとりのサービスの見直しを行い、質の向上を図る。
- 1-2 個別ケアの充実・認知症ケアの実践及び感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。

⇒アクシデントの発生を未然に防ぐように努める。また、1 ケアごとの手洗い、訪問前後の手洗い及び手指消毒の徹底で感染ゼロを目指す。

5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上をさせ離職率の軽減を目指す。

⇒アンガーマネジメントを知り、日々の業務をはじめ生活の中に上手に取り入れ、職場内環境の向上を図る。

6-1 職員の資質向上と職員倫理の徹底を図るために、各種研修会の開催や外部研修に積極的に参加する。

⇒職場内研修及び、オンラインでの研修に積極的に参加しましょう。また、自己学習に取り組む。

養護老人ホーム北淡荘

2020 年度 総括

2020 年度は、新型コロナウイルスの蔓延により、日常生活の価値観を変えた 1 年となりました。この感染症で世の中全体が甚大な影響を受ける事となり、北淡荘もその影響を受ける事となりました。入所者やご家族にとっても、今までの生活が一変し、今まで通り外出が出来ない・自由に面会が出来ないなど不便な生活を余儀なくされました。新しい生活様式が確立されていく中で、どのようにして入所者・ご家族の不安を取り除くか、コロナ禍の中で充足率をキープしていくのか、感染対策の強化などが課題となる 1 年となりました。

入所者の方たちには、外出制限がかかる中、職員が代行し購入支援と言う形で、業務の都合上すぐには対応できないものの、入所者の要望に応える事が出来たと思います。

ご家族の方たちもコロナ禍での施設での対応などに一定の理解を得る事ができ、面会は出来ないものの電話でのやり取りで、入所者の近況や施設での感染予防対策など説明することができ、トラブルなどに発展する事はありませんでした。

目標として月初満床を掲げていたのですが、コロナの影響もあり、行政も一時期、調査にも行けない状況等もあり、うまく稼働率をあげる事が出来ない月もありましたが、入所者確保に向けて行政機関と密に連絡を取り合い、また三職種協力して受け入れ体制を整え、年間を通して高い水準をキープする事が出来ました。

感染予防に関しても、職員の意識も変革し、今まで以上に強化し取り組みを行うことが出来、インフルエンザを含め、感染症の発症者はなく、集団感染ゼロを達成する事が出来ました。

現在も新型コロナウイルスの終息も見えない中、環境は厳しい状況に置かれると思われませんが、入所者の安全確保、安心して北淡荘で生活が継続できるように来年度も取り組んでいきたいと思いをします。

2021 年度 北淡荘 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 生活環境・利用者環境の向上
3. 信頼と協力を得るための情報発信
4. トータルな人材マネジメントの推進
5. 人材確保に向けた取組の強化

6. コンプライアンス(法令等遵守)の徹底

7. 健全な財務規律の確立

下記のテーマを織り込んだ目標を設定する。

1-1 利用者満足の上を目指し、現状のケア、サービスの見直しを行い質の向上を図る。

1-2 個別ケアの充実・認知症ケアの実践及び集団感染ゼロを目指す。

1-2 予防処置の徹底し前年度より重大アクシデント発生を減らす。また、感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。

2-1 コロナ渦において外出行事の自粛を行う中で、施設内行事の充実を図り利用者満足度を高める。

2-2 事業所が有する人的・物的機能を活用し、事業所自ら又は地域の団体等と連携して、様々な地域貢献活動を積極的に展開していく。

2-3 緊急・困難ケースについて可能な限り受け入れるなど、セーフティネット機能を展開する。

3-1 SNS の情報等を適宜・的確に更新・修正し、地域や一般市民等に対してリアルタイムに必要な情報を提供する。

3-2 小中高等における福祉教育にも積極的に取り組み、福祉の仕事の啓発を行っていく。

4-1 役職者としての自覚、責任、行動などの資質を向上させ、主任・リーダー層の育成に取り組む

5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上をさせ離職率の軽減を目指す。

6-1 職員の資質向上と職業倫理の徹底を図るために、各種研修会の開催や外部研修会に積極的に参加する。

7-1 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

7-2 各事業の稼働率の一層の向上や各種加算の確保に努め、安定的な収入の確保を図る。

2021 年度 事業計画

(イ) 養護部署事業計画

1-2. 予防処置・感染予防の意識を高め、重大アクシデントの件数減少、集団感染ゼロを目指す。

2-1. 「施設で過ごす楽しさ」を目的に、施設内環境・施設内行事を充実させ、利用者満足度に繋げる。

2-3. 緊急・困難ケースに可能な限り対応し受け入れを行い、安心して生活が出来る環境を整える。

4-1. 役職者としてのマネジメント能力の向上を目指し、事業所の目標とリンクさせた上で主任・リーダーへの資質向上・育成教育に取り組む。

5-1. 内部コミュニケーションの活性化を図り、職場内環境の向上、働きがいを高め、定着率を上げる。

7-2. 養護老人ホームの月初充足率 100% (168 名)、特定利用者の月初充足率 97% (58 名) を目指し併せ

て経費削減に取り組む、安定した収支状況を作る。

(ロ) 事務員事業計画

3-1. SNS の活用により、ゆうらぎ北淡荘の取り組みや行事等を、適切に情報発信していく

- 3-2. 小中高等における福祉教育にも積極的に取り組み、福祉の仕事の啓発を行っていく。
- 4-1. 役職者としての自覚、責任、行動を改め、周囲に理解してもらい、より質の高い業務をこなしていけるように取り組む。
- 5-1. 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上をさせる。
- 6-1. 職員の資質向上と職業倫理の徹底を図るために、内部・外部オンライン研修の活用を行う。
- 7-1. 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。
- 7-2. 各事業の稼働率や各種加算の確保に努めるための適切な数字の算出及び内容把握を実施、安定的な収入の確保を図る。

(ハ) 生活相談員事業計画

- 1-2. 施設内感染の重要性を認識し、それを予防する為に必要な知識・行動を高め、集団感染を防ぐ。
- 2-1. 入所者のニーズに合わせた行事に取り組み、利用者満足度に繋げる。
- 2-2. 北淡荘職員・入所者で地域貢献できる活動を模索し、出来る事から始め活動を展開していく。
- 5-1. コミュニケーションの活発化を図り、三職種連携に取り組み、部署間の壁をなくし、一人ひとりが目的意識を持ち、働きがいのある職場環境を目指す。
- 7-2. 養護老人ホームの月初充足率 100% (168 名)、特定利用者の月初充足率 97% (58 名) を目指し併せて経費削減に取り組み、安定した収支状況を作る。

(ニ) 支援員事業計画

- 1-2 感染予防を徹底して手指消毒や換気の重要性を理解して施設内の感染リスクをなくしていく。
- 1-2 アクシデントの件数を減少させられるように予防処置を作成していき、未然に防げる事故を減らしていく。
- 2-1 コロナ禍の中で外出行事等が難しいので施設内で最大限出来る行事を計画してご利用者に満足して頂けるように工夫をしていく。
- 5-1 3 職種間のお話合う機会を多く持ち、職場内環境の向上を目指して働きやすい職場を目指していく。

(ホ) 看護師事業計画

- 1-2. 施設内感染防止に向けて職員や利用者に対しても感染防止に理解を示せる様に対策を行う。
- 2-1. 生活環境を整え利用者にとって満足できる支援を提供し、満足度向上を目指す。
- 2-3. 緊急入所対象者に対し、安心した生活が送れるように配慮を行い、施設内環境を整える。
- 5-1. 職場内環境を整え他職種との連携を図り、モチベーションが高まる職場になるよう個々に努めて行く。

(ヘ) 管理栄養士事業計画

- 1-1. 食事形態(刻み食、ソフト食)を見直し、見た目食欲が湧く献立作成、調理をし、食事摂取量が良好に保たれるよう努める。
- 7-1. 残食の多い献立を把握し、無駄のない食材管理を目指す。また、価格交渉や調理の工夫で、給食

費内で質の高い食事提供を目指す。

7-2. 管理栄養士は、カンファレンスに参加し、ご利用者の状況を把握し、低栄養リスク者減を目指す。

(ホ) 調理員事業計画

1-1. 食事形態(刻み食、ソフト食)を見直し、見た目、味付けの工夫により、食事摂取量が良好に保たれるよう努める。

5-1. 新人教育(人材育成)に努め、良好な対人関係を築き、働きやすい職場環境作りを目指す。

7-1. 残食の多い献立を把握し、調理の工夫により、無駄のない食材管理を目指す。

献立の提案力を養うことで、問題解決に繋げ、満足度向上に努める。

地域密着型特別養護老人ホームほほえみ

2020年度 総括

開設から9年が経ち、2020年度は

＊サービスの質の向上に向けた体制整備の構築を行う。

＊地域共生社会に向けた取り組みを実施する。

＊職員の資質向上と職場環境の整備を行う。

＊安定的な収入の確保を図る。

を大きな目標として進めてきた。

『サービスの質の向上に向けた体制整備の構築を行う。』に関しては、会議や検討会、勉強会を定期的に行い情報発信、共有に努めながら組織的な体制の構築に努めた。また、個別での面談や聞き取りを基に業務内容や職場環境の改善を図り、サービスの質の向上に繋げる事ができた。ただ、人員不足や感染予防対策、対応などが重なり安定的なサービスの提供や体制の維持が不安定になった時期もあり、今後一層の部署間での連携や協力体制を強化していきたい。

『地域共生社会に向けた取り組みを実施する。』に関しては、これまでも関係機関や地域住民、ご家族、世代を超えた方々との交流を図りながら関係性を深めていたが、コロナウィルス感染拡大による面会制限や施設職員の外部との交流自粛などの制約を受けた事で2020年度予定していた取り組みや活動は予定通りに出来なかった。ただ、このコロナ禍の中での活動方法の模索、検討により施設からSNSを利用した情報発信の強化や様々な情報ツールを効果的に利用することで信頼関係や連携の維持を図ることが出来た。今後も継続的な改善を行い、繋がりのある関係性を維持していきたい。

『職員の資質向上と職場環境の整備を行う。』に関しては、感染予防対策として外部研修が中止となり、資格取得に繋がる講習が延期になるなど予定が大きく変わり柔軟な対応が出来なかった。また、介護用品やロボット等の展示会や見学会なども開催自体が無くなることも多く、環境整備の推進に繋がれなかった。

『安定的な収入の確保を図る。』については、4月から11月までは長期入居者の入院もありながら、入院者の空床利用を短期入所利用者に繋げて稼働は維持できていたが12月(冬季)に入り短期入所ご利用者の利用控えや中止、体調不良等により入院も目立ち、長期入居者の入院も重なったことで稼働率の低下に繋がった。また、入院先でコロナ感染予防対策としてPCR検査や病室隔離などの対応が都

度行われており入院日数自体が以前に比べ長期化した。そのような状況の中で経費の節約や節減を図り、無駄な支出を減らすように努めた。

2020年度に関しては、これまで想定していなかった感染症リスクと戦い続けた1年であり、これからも形を変えて感染症と共存していかななくてはならない状況となっている。

また、ご利用者、職員共に感染予防を第一に考えたサービスや業務の見直し、改善を図りながら常に安心、安全なサービスの提供と地域や関係機関からも信頼、信用される施設運営が出来るよう努めて行きたい。

(1) 事務職員総括

①1-2 立地条件から津波災害の危険性が高いことを考慮し災害時の対応の検討を行う。

⇒サーバーが1階に設置している為、海に隣接している立地の津波対策として、3階へサーバーの移設を行った。

②4-1 LINE・Facebookの更新の継続と地域へ向けての広報誌活動を行う。

⇒LINE等随時更新と登録のためのパンフレットの作成を行い、現在友達数480人となる。また地域等へのアピールの一貫としてほほえみチャンネルの発行とカレンダーの作成等を行い、ほほえみの取組の発信を行った。

③5-2 地域の子どものとの交流を行い地域と密接な関係を築くことを目指す

⇒感染の為、直接交流が出来ない状況となったが、作品展示やビデオレターなどで出来る交流の継続取組を行った。

④6-1 職員が参加しやすく事業所・職種を超えて交流できる新たな取組を行う

⇒新しい取り組みや会場・催し等の準備は出来ていたが、感染により親睦会の中止となる。

⑤6-1 働き方改革の段階的な制度改正施行に伴う対応に努める

⇒有給取得義務化等による確認を行い法令遵守に努める。

⑥6-2 介護現場の業務改善が出来る新たなシステムづくりへの取組みへの支援を行う

⇒介護事務業務の効率化のため、ICT化の取組みとしてタブレットの導入・WI-FI 設備環境の整備等を行った。

⑦7-1 幅広い分野での知識習得を目指し、事務職員の資質向上のため積極的な研修等に参加していく。

⇒感染予防のため各研修の参加が出来なかったが、必要な研修をWEBで受講した。

⑧7-1 千鳥会での将来の担い手を目指し資格取得や業務拡大を目指す

⇒資格取得のための受講を年間を通じて行った。

⑨8-1 給与明細の電子化への移行など、経費削減、業務効率化への取組を行う

⇒給与電子明細への移行を開始した。現在、給与だけでなく賞与・源泉徴収票も電子化も随時行い、将来的に年末調整も視野に入れて検討している。

⑩8-1. 会議等で予算執行状況の報告を行うことにより、月単位での管理と周知により安定的な運営を図る。

⇒毎月、予算執行について会議で報告を行い、収入支出の実績を各部署長に周知することで運営について考える組織作りを行った。

(2) (3) 生活相談員、介護支援専門員総括

①1-1. 1-3. ご利用者個々のケース検討会や担当者会議、部署間連携の強化、充実を図り、ケアやサービスの質の向上を図る。

⇒施設内では嘱託医を含めてのカンファレンスや部署会議やフロア会議など継続的に行う事が出来たがご家族とのカンファレンス等の協議の場が面会や訪問等の制限もあり困難な場面が多くあった。必要に応じてご家族に了解を得て書類や資料の郵送等にて情報共有を図った。

②1-2. ご利用者に関わる備品（オムツ類、マスクや消毒液など）を揃え、災害時等に備えた物品管理を継続的に行う。

⇒コロナウイルス感染拡大のリスクも考慮し、食料やオムツ類だけでなくマスクや消毒液等の確保も結果として予定より早い段階で準備出来た。また、消費期限に合わせた備品の入れ替え等も適切に実施出来た。

③3-1. 4-1. 5-1. 5-2. 関係機関、地域住民や学生と直接的な交流や関わりを持ち、地域共生社会に向けた取り組みを行う。

⇒施設内での運営推進会議の定期的な開催や地域での介護者教室等への参加は感染拡大のリスクがある時期を除き実施出来たが、出前授業（中学校への訪問）については、学校側からの感染リスク軽減を図るため実施出来なかった。今後は対面式でなくても情報発信、共有できるツールを検討し柔軟に対応していきたい。

④6-1. 顧客満足度だけでなく、職員満足度の向上のための体制、組織の確立を目指す。

⇒部署面談や個人面談を定期的実施し部署内の課題や問題点を精査し、業務改善やサービスの質の向上に繋げた。職員の体制については責任や指示系統、権限の所在の明確化などを上半期には準備出来たが、下半期以降介護職員の人員不足もあり組織体制の確立までには至らなかった。

⑤6-2. 外部研修や介護ロボットや ICT の展示会などにも積極的に参加し、業務改善や職場環境整備に活用する。

⇒研修や介護ロボットの展示会等も感染拡大防止の為、開催自体が少なく参加する機会も少なかった。そのため、職員個々の専門職としてのスキルアップも推進出来ず、足踏み状態となってしまった。今後は、感染予防を図りながら必要な研修や情報収集の場への参加（リモート研修など）を進めご利用者に質の高いサービスを提供できるよう努めたい。

⑥7-1. フロアリーダー、副リーダーの育成、教育と各職員の取得可能な資格が獲得できるよう進める。

⇒1年間を通して役職者の異動や変更もなく、体制を維持できたことや将来を見通すことのできる組織的な運営の基盤が出来た。資格取得に関しては、人員不足や感染拡大を懸念し新たな資格取得を達成できた職員は結果として0名だった。来年度に向けては、資格取得可能者の洗い出しを行い、1年を通して計画的に進められるよう部署間でも連携していきたい。

⑦8-1. 長期入居と短期入所の年間総稼働率 98.0%以上を達成する。

⇒下半期に入ったあたりまでは例年通りの稼働率を保ちながら目標達成の可能性も十分にあったが、12月に入ってからは体調不良等で長期入居者の入院が相次ぎ稼働率の低下が続いた。また、例年であれば短期入所のニーズも増加するが感染拡大の影響もあり、利用自体を控える中止する方や積極

的なサービスの利用を検討するご利用者が少なく、目標数値の達成に至らなかった。

(4) 介護職員総括

①1-1. ご利用者の生活リズムの見直しや家族様からの情報を、職員間で共有できる様ミーティングや会議にて報告し情報共有出来る場を設ける。

⇒ミーティングの中で職員間での情報の共有を行っていましたが、コロナウィルス感染拡大のリスクもあり直接家族様からの情報収集をする事が難しかった。来年度からは感染対策を踏まえ情報招集を行っていききたい。

②2-1. ご利用者や家族との時間を大切にし、個々の生活歴等を知ることで、今後の地域との関わり方・その人に適した行事等を検討していく。

⇒コロナウィルス感染拡大もあり。施設内での行事が多くなってしまった。その中で地域との関わりも少なくなってしまったが、感染対策の考慮した行事の立案を行い、コロナ過で出来る行事の実施を行うことができた。

③4-1. 月行事や活動内容を Facebook・インスタ等で継続した情報発信を行います。

⇒行事やしつらえや余暇時間の様子をフェイスブックやラインに情報の発信をする事ができた。また生活状況表を活用しご家族に写真を送り喜びの声を頂く事ができている。来年度にも継続していききたい。

④6-1. 各職員が話しやすい場を作りミーティングや会議を実施し、ご利用者の情報を共有しモチベーションの向上に努めます。

⇒職員の体制が落ち着かないこともあり実施を行うことができていなかった。ミーティングにて情報の共有を行いケアの内容の見直しを行い体制の維持に努めた。来年度に向けて会議を行う体制を作っていきたい。

⑤6-2. 日々の業務内容の見直し、福祉用具・ICT等を取り入るなど、少人数でも業務遂行できる職場環境にしていく。

⇒。リーダー間で話し合い時間外の減少。パットの見直しをおこない。1000パットの導入をし業務改善につなげる事ができた。また福祉用具の購入とはいかなかったが、Ipadの導入センサーカメラと離設センサーの購入見込みとなり業務負担の軽減に務めた。

⑥ (7-1) リーダー育成のための研修に参加しリーダーの役割や知識を養っていきます。

コロナ禍の影響もあり、研修に参加することが出来ていませんでした。今後は、リモートでの研修も開催されてきているので有効活用し研修に参加し知識の向上に努めていく。

(5) 看護師総括

① 1-1 低栄養のご利用者のアセスメントを行いリスクの排除と褥瘡予防・認知症予防に繋げる。

⇒定期採血の結果、嘱託医と相談しながら低栄養の方や褥創治癒困難な方に高カロリーゼリーや、ナトリウム低値の方には塩分(梅干し等)補充など行い健康管理に努めた。

②2-1 地域サービスの一環として主治医や理学療法士・作業療法士等の連携を深め、ご利用者の健康管理及び生活援助を目指す。

⇒コロナ禍の中で、訪問リハビリ等、スムーズには進まなかったが、来所時にいただいたアドバイ

スを基に個別リハビリは継続して行けた。今後は、言語聴覚療法士とも連携もとり退院時に嚥下状態の確認をとり、肺炎のリスクに軽減に努める事とする。

③6-1 他部署の看護師との協力体制を築き、双方の業務の負担軽減を図る。

⇒部署隔離中であり直接、各部署への応援は出来なかったが、ご利用者の状態の情報交換等、協力体制は取れた。

④7-1 資質向上の為、積極的に外部の研修に参加し、そこで得た学びを水平転換する。

⇒コロナ禍の中であり、外部研修の代わりに、Web研修を勧めた。他、自己学習に切り替え、学んだことを共有し、資質向上に繋げた。

⑤3-1 地域の方に向けて年に2回の勉強会を開催とパンフレット配布する。

⇒当初、100歳体操の参加者に向けての勉強会を予定していたが、施設利用が中止となった為、その時の状況に応じ、新型コロナウイルスに関するパンフレットを年に3回、作成した。それをご利用者のご家族と、地域のローソンへ配布した。

(6) 管理栄養士、調理員総括

①2-1 職員個々がご利用者と関わりを持ち、ご利用者の生活されてきた背景を知り理解に努めることで、ご利用者個々のニーズに合わせた食事内容提供に繋げ、ご利用者満足に努めていく。

⇒部署全体で配膳時などに接触的に声掛けをし、リクエストメニューの聞き取りや、ご利用者の声、部署会議などで伝達、共有し献立やおやつ提供に反映させ個人対応にも努め、たくさんの方々の声を頂くことが出来た。

②1-3 厨房内衛生管理、また調理従事者個々の感染予防を管理し、安全な食事提供を行う。

⇒衛生面に徹底した食事提供を行うことが出来た。また地域で感染症が流行する中、二次感染を含め部署に持ち込むことなく、安心安全の食事提供を行うことが出来た。

③4-1 地域の方々にほほえみの食事に興味を持って頂ける様、食事をして頂く場を作り、必要な情報発信を行っていく。

⇒ご当地メニュー・行事食・手作りおやつ等、積極的にSNS等で発信を行い、たくさんの方々に知って頂くことができた。

④8-1 食材料費上昇の中、安定した食事提供を行うため、食材、献立、調理法等の見直しを行う。

⇒部署全体で献立・食材・産地・調味料の種類を見直しの継続を行い質の高い食事提供に努めた。

⑤8-1 購入品の必要度や優先順位を精査し、適正なコスト管理を行う。

⇒備品についても優先順位を精査し購入することでコスト管理を行うことが出来た。

⑥7-1 法人内外の研修に参加し、専門職として資質向上に努める。

⇒コロナ禍でオンライン研修となったが研修に参加することで資質向上に努めた。

⑦1-2 地域の災害訓練に参加し他施設との連携を図り学ぶ事でまた法人内の食の支援での訓練を有意義なものとする。

⇒通報訓練では自施設が被災施設と過程し行われた。参加していく中で地域の近隣施設と話し合い、関連施設と交流を持ち、情報共有が行えた。災害時に備え、食支援の明確な体制を作っていきたい。

⑧6-1 職場環境の変化に応じた時間配分と業務内容の改善を図る。

⇒各事業所からの要望また、配膳時間変更等により部署内で業務の時間変更や改善を継続的に行って

きたことでご利用者満足に繋げることができた。

2021年度 ほほえみ 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 生活環境・利用者環境の向上
3. 信頼と協力を得るための情報発信
4. トータルな人材マネジメントの推進
5. 人材定着に向けた取り組みの強化
6. コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
7. 健全な財務規律の確立

下記のテーマを盛り込んだ目標を設定する

- 1-1. 常に利用者の立場に立って良質かつ適切なサービスを提供する。そのためにもサービスの担い手である職員の質の向上を推進する。
- 1-2. 今後起こりうる想定される大災害に備えた災害時のライフラインの検討。
- 2-1. 感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルに基づき、実際に予防対策に取り組む。
- 2-2. 感染症の予防・拡大防止を視野に入れ、利用者が日々楽しみを感じられる活動の提供を行う。
- 3-1. 感染症の予防・拡大防止のため日常生活が制限されている中で、施設内の情報等をリアルタイムにご家族・地域等に発信していく。
- 4-1. 人口減少に伴い労働力人口が減少する中で、良質なサービスを効果的・効率的に提供していく為に、業務の見直し・ロボットや ICT といった先進的な技術を用いた業務を推進していくことを検討する。
- 5-1. 労働関係法令の遵守と適切な労務管理により、職員の安全と健康(メンタルヘルス、腰痛防止策、その他労働災害)を保持し、快適な職場環境づくりを推進する。
- 6-1. 様々なリスクを回避するために、事故等を未然に防止するための具体的な取り組みを推進する。
- 6-2. 2021年度介護報酬改定については、専門職等の人員配置基準を守り、法令に定められた基準に基づき請求事務を行う。
- 7-1. 各事業の稼働率の一層の向上や各種加算の確保に努め、安定的な収入・経費削減に取り組む。

2021年度 事業計画

(1) 事務職員事業計画

- ① 1-2 災害時のライフラインが停止した場合を想定した設備整備を行う
- ② 2-2. 感染対策の為に楽しみが減少しているご利用者の為に施設内で感染予防しながら行事・活動を計画する。
- ③ 3-1. LINE・Facebookでの情報発信の更新継続を行い登録人数増やすと共に地域へのアピールとご家族への安心を届ける
- ④ 3-1. 千鳥会を知ってもらうことを目的に法人全体の情報発信ツールとしてInstagramでの発信を日々行い1000フォロワーを目指す
- ⑤ 3-1. 千鳥会ホームページをリニューアルし、地域や求職者へのアピールへと繋げる

- ⑥ 4-1. 業務改善やロボット・ICT に関する情報を現場へ提供し、今後の介護体制の見直しの後押しをする
- ⑦ 4-1. 事務業務効率化の目的として事務の共有化を図る
- ⑧ 5-1. 労働基準法を遵守する勤怠管理システムの新規整備を進める
- ⑨ 5-1. ストレスチェック委託業者変更に伴う流れをスムーズに行い、職員のストレス管理を滞ることなく進める
- ⑩ 6-2. 2021 年度介護報酬改定の知識を高め、基づいた請求業務を行う
- ⑪ 7-1. 給与管理システムの移行の必要性を逆に経費削減、業務効率化へと繋げるための交渉やシステムの構築を行う
- ⑫ 7-1. 会議等で予算執行状況の報告を行うことにより、月単位での管理と周知により安定的な運営を図る。

(2) 生活相談員 (ハ) 介護支援専門員 事業計画

- ① 1-1. 各職員の取得可能な免許や資格獲得の推進と外部研修（オンライン含む）等の参加を通して職員の質の向上を図る。
- ② 1-2. 災害時を想定した実践的な避難訓練や勉強会を行いながら、必要な環境整備や備品等の調達、調整を行う。
- ③ 2-1. 感染状況を把握し、感染対策を講じながら関係機関やご利用者、ご家族と連携し施設内でコロナ感染者ゼロを目指す。
- ④ 2-2. コロナ禍の状況を踏まえた上での 3 大行事（春祭り、日帰り旅行、敬老会）の実施と月行事や余暇活動の充実を図る。
- ⑤ 3-1. ご利用者や施設情報をご家族、関係機関に様々な方法で情報発信、共有できるネットワークやツールを構築していく。
- ① 4-1. 費用対効果を評価した上で介護ロボットや ICT の導入を行い、CS や ES の向上に繋げる。
- ② 5-1. 業務内容、人員配置等の見直しや ICT の導入を行い、効果的で心身ともに負担軽減に繋がる職場の環境整備を行う。
- ③ 6-1. 事故報告書、アクシデント、インシデント報告書内容の分析結果をデータ化し、同様のアクシデント発生の軽減を図る。
- ④ 6-2. 介護報酬改定に伴い新たに算定可能なサービスの提供と加算取得を他職種連携にて行う。
- ⑪ 7-2. 長期、短期の年間総稼働率『98.0%以上』を達成する。

(3) 介護職員方事業計画

- ① 1-1. コロナ禍でも参加可能な研修に参加、職員の取得可能な資格の把握。全体会議時に勉強会を実施し、知識や技術の共有に努める。
- ② 2-2. 状況に応じての季節行事の立案、余暇活動にレクリエーションを取り入れ、ご利用者の満足度の向上を図る。
- ③ 3-1. 行事や余暇活動の写真を生活状況表にて送り、日頃の様子をご家族に伝える。それ以外の施設内の様子等も facebook 等で情報発信に努める。

- ④ 4-1. 職員の意見やアンケート等を取り、必要なロボットの導入を検討していく。
- ⑤ 5-1. リーダー会議で業務の見直しを行い、職員の業務負担の把握。介護用品やロボット等を検討、職員負担の軽減に努める。
- ⑥ 6-1. 両フロアーのアクシデント、インシデントの統計を取り、再発防止を図る。
- ⑦ 6-2. 多職種連携し、取得可能な加算等を話し合っって検討していく。

(4) 看護師事業計画

- ① 1-1. コロナ禍の中、外部研修が困難と予測される為、オンライン講義等を有効活用し質の向上を図る。
- ② 2-1. 新型コロナウイルス感染予防として、外部の医療機関と連携を図り、ワクチン接種等スムーズに対応できるよう進める。
- ③ 2-1. 感染対策の基礎知識を職員全体が理解し、日常からの感染予防周知、実行を目指す。
- ④ 4-1. 職員による全体的な口腔ケアの見直しと、口腔ケア困難事例に対しての取り組みを行い誤嚥性肺炎へのリスクの減少を図る。
- ⑤ 6-1. 過去のアクシデント・インシデントを2月に1回毎に再確認し同様のアクシデントを繰り返さないよう努める。
- ⑥ 7-1. 稼働率維持の為、疾病の早期発見と予防看護に努める。

(5) 管理栄養士、調理員事業計画

- ① 1-1. ご利用者の身体、食事状況を把握し、個々のニーズに合わせた食環境を整えることでご利用者満足に繋げる。
- ② 1-1. 食材や献立の見直しを継続し安定した食事提供を行う。
- ③ 1-2. 災害時に備え、地域の他施設と情報共有し、連携に努める。
- ④ 2-1. 災害時に安全に食事提供が出来るよう、定期的な備蓄・備品の整備とマニュアル等の確認を継続して行う。
- ⑤ 2-1. 施設の衛生管理と調理従事者の個々の感染予防を徹底し、安全安心な食事提供を行う。
- ⑥ 3-1. ご利用者の楽しみとなる行事食を推進し、ご家族や地域の方々に必要な情報発信を行っていく。
- ⑦ 6-1. 異物混入等に留意し、ご利用者に美味しく召し上がって頂ける様、安全な食事提供を目指す。
- ⑧ 7-1. 介護報酬改定による算定可能な新たな加算の取得準備を行い、栄養面でリスクのあるご利用者に対し他職種連携でケアに努める。
- ⑨ 7-1. 備品等購入品の必要度や優先順位を精査し、適正なコスト管理に努める。

千鳥会デイサービスセンターほほえみ

2020年度 総括

2020年度は昨年度と同様に通常規模、定員35名での運営となりました。1日の平均利用人数は24.5名で、昨年度から1日平均2名程度減少する形となってしまいました。当初予算の目標値では1日平

均 28 名を想定していたので、予算・稼働率ともに大きくマイナスとなってしまいました。原因としては、新型コロナウイルスの感染拡大が大きく影響していると考えられます。4 月～5 月の 1 回目の緊急事態宣言時は、事業としても感染拡大防止の観点から利用自粛を案内いたしました。宣言介助後は新規利用の受け入れ等により、数字が回復してきましたが、12 月にはデイ利用者から新型コロナ陽性となられた方がおり、4 日間の営業休止となりました。事業所内での感染拡大はなかったものの、感染者が出たことによって利用を休止される方もおり、稼働率が下がることになってしまいました。2 回目の緊急事態宣言では大きな影響はなかったように思います。新規の利用相談は継続的にあるので、利用に繋げていくとともに、感染対策の徹底により、安心して利用いただける環境を整えていきたいと思ひます。職員体制については 4 名の入職がありましたが、4 名退職し、1 名異動となり昨年度より 1 名減員となっています。新入職員の教育環境についても継続して勤務出来るよう、職員間での連携・協力体制を整えていく必要あると感じています。

サービス面では、利用自粛者への手紙や電話等の定期的な関わりで繋がりを継続出来るよう取り組みました。コロナ禍による感染対策については、パーテーションの設置や、三密の回避、定期的な喚起やマスクの着用の徹底に取り組み、行事やレクリエーションの規模、内容を考慮して実施してきました。また、連絡帳を活用して、家族とのやり取りをしながら個別の対応でサービスの向上に取り組みました。継続している歩こう会では、参加者が増えていることもあり、より一層のやりがいと、意欲の向上に繋がられるよう達成記念品と設定し取り組んでいます。

外部への発信については、広報誌やライン・フェイスブックの活用、新聞社への取材依頼を行い、事業所のことを多くの方に理解していただけるよう継続して取り組んでいます。コロナ禍の中で、より一層の発信力の強化に取り組んでいきたいと思ひます。

地域との交流については、直接的な交流は出来ませんでした。敬老会で近隣保育所とビデオレターやプレゼントの交換という形で交流を行いました。今後も継続して交流出来るよう、方法を考えていきたいと思ひます。

2021 年度は介護報酬の改定があり、基本報酬のアップはありますが、入浴介助加算の実質マイナスと、コロナ特例の加算がなくなることで全体としてはマイナスとなる見通しです。感染対策を徹底しながらその中で出来ることを考え、利用者に満足していただけるサービスの提供に取り組むことで、利用人数の増員に繋がってきたいと思ひます。また、職員の異動もある為、利用者・家族、関係機関に迷惑をかけることのないよう、円滑に引き継ぎを進めていきたいと思ひます。

2021 年度 事業計画

1-1 職員の資格取得や研修参加による質の向上を進め、利用者一人ひとりの状態に応じた適切なサービスの提供に取り組む。

2-1 感染症マニュアルに基づき、感染対策の徹底の継続、感染予防の注意喚起や新たな対策があれば取り入れていく。

2-2 感染対策を継続する中でも、利用者が楽しく過ごせる行事や取り組みを検討し、実施していく。

3-1 行事や取り組み等、事業所のことを理解していただけるよう、継続して情報発信を行うとともに、様々な人に安心感を与える取組みを行う。

4-1 継続的な業務の見直し、改善を実施し、サービスの効率化を図り、ロボット等の先進的な技術を用いることも検討していく。

5-1 快適な職場環境づくりに向け、業務の見直し効率化により職員の負担の軽減を図る。また、時内で業務を終えられるよう職員間で連携、協力を努めていく。

6-1 職員の気づき等をインシデント記録に残し、職員間で共有出来るよう徹底し、事故に繋がる可能性を取り除いていく。

6-2 2021年介護報酬改定について、必要な手続き、説明、同意を円滑に進め、改定内容に対応していく。

7-1 消耗品の無駄を排除して経費削減と、目標稼働率の達成に取り組み、新規加算については情報収集を行いながら随時検討していく。

(1) 生活相談員事業計画

1-1 各種研修に参加し、相談員としての能力の向上を図ります。

5-1 職員間のコミュニケーション力を向上させ、互いの持つ知識・能力を共有する事で、技術の向上・働きやすい環境の確保に努めていきます。

7-1 地域のケアマネージャーへの新規利用の案内を行い、施設外からのご利用者の数を増やしていきます。

(2) 看護師事業計画

1-1 サービスのクオリティ向上を図る為、看護師の質の向上を目的として、教育・研修に率先し取り組む。

2-2 ご利用者の健康状況を十分に把握し、日々の健康管理を支援し、感染対策を徹底する。

6-1 インシデント・予防処置を活用する事により、重大な事故・損失を未然に防ぎ、他触手の連携を充実し適切に行動する。

(3) 介護職員事業計画

1-1 ご利用者の身体状況を把握し、職員間で情報を共有し、事故防止につなげるための技術向上に努める。

2-2 質の高いサービスを提供できるよう、ご利用者のニーズに答えていくとともに、職員間の技術向上、情報共有に努め快適な環境を作ります。

6-1 あらゆる事故を予測し、危険因子となりうるものを取り除き、早期発見により事故を未然に防ぐように努める。

小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ

2020年度 総括

管理者・計画作成担当者の交代があり稼働率の安定が求められていました。上半期は、新規登録者に比べ入院者等の占める割合が多くなり稼働率の減となりました。登録者定員 29 名 一日定員 18 人の法令の中で定員を厳守する為、利用者の状況とサービス内容を確認し、逆デイ（泊りのみ）の人員配置も考慮しながら登録者確保に努めて参りました。重度の利用者様の対応にも積極的な対応ができました。出来るだけの支援を家族様と連携をとる事により在宅支援に繋がられました。そんな中入院する事になるも本人様や家族様の希望を叶え、

退院後も痛みの軽減を図り苦痛なく週末時期まで泊りを中心のケアでサービスの質の向上につながりました。

途中で介護看護体制加算も看護職員退職の為、配置が出来なくなり取りさげ体制加算を算定できずとなる。その後看護師の入職 2 名もあり専門職によるケアの在り方など低下する事なくサービスの継続を続行でき、利用者様、家族様に迷惑また不安をかける事なく介護職員間の連携でサービスの質を落とす事なく支援ができました。

下半期は、登録依頼も前半に比べ増となり、登録人数 26 人となりました。

登録者の受け入れ状況も続き、今まで培ってきた利用者対応や退院支援時、他事業所では出来ない家屋調よりの関りで自宅清掃も、日常生活がスムーズに展開できる体制作りの確立を踏み込んでサービスの展開や訪問支援の柔軟な工夫でサービスの質向上ができました。又そのような積み重ねで地域からの信頼を得、多機能サービスの機能を発揮してできました。

新型コロナ感染においては、体調の変化には慎重な対応で予防に心掛けました。

感染時で制限される事が多々あり取り組める行事も狭まれた一年でしたが、出来る事、喜んで頂ける内容を提供し、Facebook 等の情報発信で喜びの声を聞くことができました。又ご利用者様家族様にも感染予防への理解も得ながら連携を図っていき、感染拡大防止にご協力を得ながら関わり支援に結び付けていきたいと考えます。

令和 2021 年度は、管理者・計画作成担当者の交代があります。

介護福祉士の専門職員の増により事業所として寄り一層飛躍の機会となると考えています。柔軟なサービスの継続と困難者受け入れ体制の確立に向け、職員教育等で支援方法や取り組みにおいても更なるチーム力の向上を目指していきます。

2021 年度 事業計画

- 1-1. 認知症ケアに重点を置き、会議等で職員が議題を出し合い日々向上していく。
- 1-2 防災に関しての職員の訓練。災害等時、独居利用者が安全に避難出来る体制の確立。
- 2-1 感染源となる原因の早期発見と予防対策の徹底を図り、施設内の侵入を防ぐ。
- 2-2 感染状況を見ながら施設内外で出来る行事を考え、安全でマンネリ化のない内容を提供していく。
- 3-1 些細な情報でも伝達できるシステムを行い、家族様や関係機関に発信する。
- 4-1 利用者のニーズに叶う必要物品（介護ロボット等）を常に検討し取り入れ、業務の負担軽減が得られるようにする。
- 5-1 日々の職員の健康管理に気を配り、他職員との連携を保ち相談しながら、又業務の見直し等を行い働きやすい環境に努める。
- 6-1 事故等の原因を掘り下げメンバーで共有し、リスクを予言する気づきの力を身に付けていく。
- 6-2 介護保険改訂に伴い、基本報酬や加算取得を目指し算定可能にする。
- 7-1 新規利用者の確保の為関係機関と連携を図り、利用者の健康管理に努め稼働率 90%を目指す。

ちびっこランドちどり

2020年度 総括

これまでちびっこランドちどりは、マンションの一室で保育事業を行ってきましたが、4月より新しい園舎に移転し、新しいちびっこランドがスタートいたしました。しかしオープン前から新型コロナウイルス感染症が流行し始め、内覧会・記念行事の中止、開園以降も登園自粛といった感染防止策が講じられ、新設オープンという晴れ舞台がコロナの影響と重なってしまい、少し寂しい思いでのスタートとなりました。子どもの健康のために仕方がないこととはいえ、これまでできていたことができなくなるのは、少しさびしい感じもしましたが、安心・安全な保育環境に努め、職員一丸となって新しい生活様式への切り替えを行ってきました。

保育の現場は、予防対策として言われている「3密」を避けることが難しく、絶えず密着状態での環境の中に置かれています。そうした中、いかに予防に努めるか職員と話し合い、マスクの装着・手洗い・消毒・換気に努め、保護者へも感染予防の注意喚起等のご協力をお願いし、感染症への予防徹底を行って参りました。幸い、園関係者、保護者間での感染症発症者はなく、無事に年度末を迎えることができたことはとても喜ばしいことです。毎年流行するインフルエンザや胃腸炎などの感染症の発症もなく、日頃の予防対策の効果であると思っております。

新しい園舎になって保育スペースがひろくなり、これまで動きに制限があった表現あそびや音楽遊びなどがのびのびと実施することができるようになり、保育の幅も広がりました。0歳児は初めて親元から離れて過ごす環境に不安で泣く子もいましたが一人ひとりの関わりを大切にし、安心して過ごせるように環境を整え、保育の信頼関係を築き個々の発達に合わせ、ゆったりと関わることを大切に抱っこやおんぶなどのスキンシップを十分に行い、子どもたちが安心して保育生活が過ごせるように心がけました。年度末になる頃には、自我も芽生え「何でも自分で」という思いが見られるようになり、遊びや食事の仕方などに成長が見られてきました。

1歳児に関しては一番人数も多く手がかかる月齢児で、一人遊びから友達への興味・関わりへと遊びの幅が広がる中で、うまく言葉がでず噛みつき、ひっかくといったトラブルも多く、その都度職員間で話し合いながら環境や生活の流れを見直し対策を考えました。気持ちを受け止め言葉で丁寧に知らせていくことで自分の思いを伝えられるようになり年度後半には集団遊びなど、友達と遊ぶことの楽しさを感じられるようになってきました。食事面では、咀嚼の未熟さ、好き嫌いの多さが問題でしたが、一人ひとりに合わせまずは楽しく食べることを大切にし、少しでも食べることができたら大いに褒め、食べることへの意欲を育てていくことで、食への関心につながっています。

2歳児は身の回りのことは一人ひとりに合わせた援助や見守りを行うことで着脱、靴、靴下を履く、服やタオルを畳む、降園準備をする、といった「できること」が増えていきました。自己主張もはっきりと現れ、トラブルの原因となることが多いですが、言葉できちんと伝え向き合い、なぜいけない事なのか理由を伝えて理解する力をつけて行けるように援助を行っています。

行事計画は、四季を通して多彩な行事を職員間で話し合い、コロナ渦でも職員と子ども達が心から楽しめるようにと作成、実施しました。保護者の方からも、行事に対して喜びの声も沢山いただくことが出来、それらは職員にとって次への意欲となりました。また、毎年恒例となっている他事業所とのふれあい行事への参加ができなくなり、コロナ渦ならではのふれあいの仕方に工夫をし、ガラス越

し面会等を行いました。ガラス越しにご利用者と手を合わせる子どもたちは、いつもと違った感覚でふれあいを楽しみ、また利用者の方も直接触れることができないもどかしさだけでなく、「またいつ会える？今度は直接会えるといいね」といった次への期待を抱いてくださり、生活に張り合いを持っていただけたと思います。

一時保育を利用された方の口コミで、新規の一時保育登録者も増え、地域における子育てニーズを把握しながら、地域に貢献できる保育事業として、保育サービスの質の向上に努めてまいります。

2021 年度 事業計画

- ① 感染拡大防止対策を十分に行い、安心・安全な保育を行う。
- ② 年齢に応じた落ち着いた保育環境の中で子どもたちが安心し、安定した生活が保障され充実した毎日を送る。
- ③ ひとりひとりの子どもの気持ちがしっかり受け止められ、人として尊重される。
- ④ 日常生活の中での丁寧な働きかけをもとに、自分の体を守る知恵や習慣を身につけていく。
- ⑤ 豊富な体験を通し、創造の芽生えを培う。
- ⑥ 子どもの発達にあわせたきめ細かな食事、おいしく楽しい食事を通して健康な生活の基礎をつくる。
- ⑦ 安全で楽しく、主体的な園生活ができるような環境の工夫と整備充実を図る。
- ⑧ 保育所としての専門性をいかし、地域の子育てニーズにあった取り組みを行う。
- ⑨ 職員の資質・専門性の向上のため、外部研修参加及び勉強会の実施を行い知識向上に努める。
- ⑩ 月々の予算設定および進捗状況の管理に努める。

グループホームしおさい

2020 年度 総括

2020 年度は全国的な新型コロナウイルス感染症拡大にともない、事業所運営、ご利用者の生活において、常に感染予防対策を念頭に置きながらの日々となりました。地域との交流については、秋祭り開催中止を含め直接的な関わりの機会を積極的に設けることはできませんでした。ご家族との交流面会においては、厚生労働省や兵庫県、加盟するグループホーム協会、法人の対応の指針を目安として、ご家族に理解を得ながらの対応となりました。そんな中でも感染予防にあたりながら、ご利用者とご家族の関係性を大切にし、地域の感染状況をみながら十分なソーシャルディスタンスのもと、直接顔を見ての体調の確認やオンライン面会導入実施も行っています。この機会に事業所のオンライン化のため、インターネット回線を光回線に変更。法人や地域への会議についても、オンライン対応が可能となりました。また情報発信としては、従来の地域に向けた社会福祉協議会広報誌や Facebook に加え、オンライン面会用に開設した LINE を使用した家族限定の情報発信も行っています。

2020 年度より管理者の変更もあり、従来、事業所として積み上げた認知症対応型共同生活介護としての取り組みや方向性は維持しつつ、原点回帰として認知症への理解共感と利用者支援、ケアに活かすことにあらためて取り組んでいます。月 1 回の職員会議での勉強会や、個々のケースを通して「老い」や「認知症」の変化について、今一度の学びを深めています。運営面においては、職員ご利用者どもの感染症予防対策を図る中、ご利用者の体調の維持も図れ、入居稼働率も目標の 97%を維持できていま

す。収支運営は稼働目標を達成しても、難しい状況は続きますが、引き続き、ご利用者へのよりよい支援が結果として、安定した事業所運営につながるよう努めていきます。

2021 年度は、ユニットごとにおける計画作成担当者を中心としたケアマネジメントの確立、看護師の配置により、ご利用者の健康管理面と感染症予防の充実を図っていきたくと考えています。長年、地域に根差した認知症共同生活介護としての在り方を模索してきましたが、事業所力の向上により、その役割や機能が果たせるようにしていきます。

2020 年度しおさい事業方針

1. サービスの質の向上
2. 地域との関係の継続
3. 信頼と協力を得るための情報発信
4. 人材定着に向けた取り組みの強化
5. 健全な財務規律の確立

下記のテーマを織り込んだ目標を設定する。

1. 地域圏域におけるただ一つの認知症対応型サービスの専門性を活かし、地域に欠かせない社会資源として機能する。
 - 1-1 認知症や老いへの理解を深め、離れて暮らせども利用者と家族のそれぞれのカタチに寄り添った支援を行う。
 - 1-2 コロナ禍に応じながら、認知症対応共用型デイサービスの実施。地域の認知症専門サービスとして機能する。
 - 1-3 (大規模) 災害に対する対策を再考し、事業継続計画の完成と継続的な改善。有事にもサービスの継続が行える。
- 2 コロナ禍においても運営推進会議や社会福祉協議会を通じ、地域住民との関係や活動に参加をしていく。
- 3 SNS (Facebook・LINE) や地域の広報紙で情報発信を行う。毎月複数回、随時に発信していく。
- 4 事業所内における専門職の役割と組織の再編成。チームケアのなかで、職員ひとりひとりの役割の明確化と居場所を作る。
- 5 多様な専門職のチームケアの拡大を行う。スケールメリットを活かした、事業所収支の改善。

2021 年度 しおさい事業計画

- ① 認知症への理解を今一度深め、利用者個々の家庭的な雰囲気のもとやすらぎある環境作りに努める。
- ② コロナ禍においても地域や関係機関との会議体や日々の関わりから、地域住民との関係や活動に参加をしていく。
- ③ 地域の広報誌と Facebook や LINE を使用し、地域や家族に向けての情報発信に努める。
- ④ ユニットごとに多職種によるケアマネジメントの体制作りと支援の向上をはかる。
- ⑤ 職員個々の年齢や経験を尊重し、チームのなかで一人一人の役割作りに努める。
- ⑥ 報酬改定にともなう新たな加算算定や兼務緩和を活かし、チーム力の向上とともに安定した事業所運営を行い、収支の改善を図る。

しおさいデイサービスセンター

2020 年度 総括

2020 年度当初より新型コロナウイルス感染拡大状況に伴い、共用型であり入居者とともに過ごすデイサービスについては、積極的な受け入れが行えない状況でした。また十分な職員配置に至らず、年度当初はご利用者が一名の状態でした。そのご利用者も在宅での生活が難しくなり、老人保健施設入居となった 12 月からはご利用者がいない状況であります。

地域からは認知症対応に特化したデイサービスへの期待も強く、新型コロナウイルス感染状況を見ながらも、稼働体制を整えていく必要性を感じています。

2021 年度は、職員体制の充実と兼務要件の緩和等もあり、稼働体制を整えていきます。また地域における重要な社会資源として、同じ圏域のデイサービスの休日の営業なども実施し、その役割を増していきたいと考えています。

2021 年度 事業計画

- ① コロナ禍においても、地域圏域におけるただ一つの認知症対応型サービスの専門性を活かし、地域に欠かせない通所サービスとして役割を果たす。

小規模多機能型事業所 ぬくもり

2020 年度 総括

今年度は 3 月 1 日時点で登録者は 21 名、稼働率は 72%。前年度末は、登録者数 24 名、稼働率 82% でした。新規登録者は 4 名、登録解除者は 7 名となり、前年度から 3 名の減員となっています。登録解除の要因としては、入院による状況変化で、・ぬくもりに再登録する事ができなくなった、・特養ホームへの入所となった、・ご家族の居住地の島外の施設へ入居となった、入院後に死去されたなどによりあります。

新型コロナウイルス感染症、また、2 度の緊急事態宣言下の影響で、運営に於いては感染予防に多くの時間を費やす事となり、外出レクリエーションや慰問ボランティア、地域交流が普段のように行えない一年となり、現在も続いています。このような状況下においても、例えば、志筑小学校 4 年生とのビデオレターによる新しい形の交流を行いました。また、施設内の行事、レクリエーション等は感染対策を実施しながら行いました。4 月以降の感染状況の終息ははっきりとは見えない状況にありますが、毎日の感染予防に徹しながら安全第一で運営を続けていかなければなりません。小規模多機能の特性を活かし「通い・訪問・泊り」のサービスをご利用者の状況に合わせてながら柔軟な提供により、ご利用者の支援に繋がるように努めていきます。また、運営面では、事業所の建物に経年劣化による影響がみられ、屋根と外壁の大規模修繕を行いました。

2021 年度への課題及び展望

今年度には、新型コロナウイルス感染症の全国的な状況によるが、ぬくもり職員として、ご利用者の在宅生活が継続できるように、職員の資質向上を図りながら、ぬくもり職員が協働チームとして支援していきます。また、私達は地域福祉を担う重要な役割を担う仕事である事を再認識し、誇りをもって業務に取り組んでいきます。また、職場においては、職員同士がプラス思考で意見の言い

やすい雰囲気職場、働き続けていきたいと思うような職場を目標とします。
今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、外出行事も取り入れていければと考えています。
防災面では南海トラフ大地震に備えた、避難訓練等も実施していく計画です。
運営面では適切な利用稼働率を目標とし、安定的に運営できるように努めていきます。

佐野デイサービスセンター

2020年度 総括

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大・流行により、事業所の運営にも大きな影響を与えたと思います。感染予防対策を取りながらの営業は、本当に苦労しました。なかには、自ら利用自粛される利用者様もおられましたが、佐野デイサービスセンターをご利用して下さった利用者様には感謝を申し上げたいと思います。行事においては、外出行事を自粛したり、佐野デイ一大行事の秋祭りも規模を縮小しての開催になり、地域の方との交流が図れなかったように思います。そんな中でも、事業所内での取り組みに力を入れ、行事食やレク・イベントなど、職員一同頑張り、利用者様に楽しんでいただけました。普段の食事や、行事のイベントなどでは利用者様や家族様からの、よろこびの声をいただくことが出来ました。利用者様や家族様に喜んでいただき、本当に良かったと思います。

2021年度への課題及び展望

1. 品質保証委員会を開催し、サービスの質の向上を図ります。
2. SNS・広報誌を活用し、社会に情報発信を行います。
3. 職員の声を聴き、柔軟な対応をとり、働きやすい環境づくりを行います。
4. 法令に関する勉強会を行い、コンプライアンスの徹底を図ります。

千鳥会福祉用具貸与事業所

西暦 2021年度事業計画

福祉用具とは、車いすや手すりなど、高齢者や障害者の自立をサポートし、介護する方の負担を軽減する用具を指します。

福祉用具貸与事業は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、指定を受けた事業者が、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な福祉用具を選ぶための援助や取り付け、調整を行い福祉用具を貸与する。

◆提供できるサービス

要介護・要支援

自立した日常生活を送る事ができるように、利用者の心身の状況を勘案して、適切な福祉用具の貸与を行う。

【福祉用具の貸与対象種目】

介護保険法において、福祉用具は原則レンタル支給となりますが、入浴・排泄用に供

するもの等貸与になじまないものは特定福祉用具として販売対象となります。

【福祉用具貸与対象種目】（13 品目）

- 車いす
- 車いす付属品
- 特殊寝台
- 特殊寝台付属
- 体位変換器
- 認知症老人徘徊感知器
- 床ずれ予防用具
- 移動用リフト
- 歩行器
- 歩行補助つえ
- 手すり
- スロープ
- 自動排泄処理装置

◆【人員配置】

●管理者 1 名

※他の業務との兼務可能

※併設する事業所、施設などがある場合、これらに従事する者との兼務可能

●福祉用具専門相談員（常勤 2 名以上）の配置

※福祉用具専門相談員指定講習に相当する講習の課程を修了し、終了した旨の証明書
の交付を受けた者

※都道府県知事が指定する一定の基準講習（福祉用具専門相談員指定講習）の課程
を修了し、終了した旨の証明書の交付を受けた者

※介護福祉士、技師装具士、保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、
社会福祉士、介護職員基礎研修修了者、介護員養成研修 1 級・2 級過程修了者

◆【その他】

運営基準は、下記の要件を満たす必要があります。

- 利用者の希望・状況に応じた適切な福祉用具の選定
- 福祉用具の説明・点検・調整・修理等
- 多くの福祉用具を取り扱う事
- 適切な消毒・保管（委託可能）
- 提供するサービスの評価・改善
- サービス提供拒否の禁止

正当な理由がなくサービス提供の拒否はできません。

サービス提供困難時の対応

事業実施地域の関係で適切な提供が困難な場合は、他事業所の紹介等を行います。

◆継続的なニーズによる安定運営

本格的な高齢化社会により、福祉用具の需要は高まり続けており、経済的な理由などからレンタルを希望する人々も増える一方です。高齢化現象は今後も続くと予測されており、福祉用具貸与事業には安定した運営が見込まれます。

◆地域社会への貢献

福祉用具貸与を通じて、高齢者の方や障害を持つ方の生活の質の向上に貢献できます。又、多様な人々が社会に参加出来ることで、より豊かなコミュニケーションづくりにも貢献できると考えます。